

項目別業務実績評価

<評価凡例>

5 計画に対し十分に取組み、顕著な成果が得られている。 A 計画に対し十分に取組み、成果が得られている。
B 計画に対し十分に取組んでいる。 C 計画に対する取組みは十分ではない。

中期計画		第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																												
中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価																																																								
						説明																																																								
第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																												
1 医療の提供	1 医療の提供	1 医療の提供																																																												
医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。																																																													
(1) 基本的な診療理念	(1) 基本的な診療理念	(1) 基本的な診療理念	—	—	—	—																																																								
診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。	各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①患者への十分な説明と同意の徹底 ②医療技術の向上 ③チーム医療の推進 ④医療安全対策の充実 ⑤患者満足の向上	1	①患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。	セカンドオピニオン数 (単位:件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>114</td><td>115</td><td>90</td><td>112</td><td>114</td><td>114</td></tr><tr><td>こころ</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>こころ1</td><td>39</td><td>58</td><td>58</td><td>49</td><td>74</td><td>49</td></tr></table> セカンドオピニオン利用機関別利用件数(割合) (単位:件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>医療機関医師(国)</td><td>124</td><td>145</td><td>165</td><td>116</td><td>116</td><td>111</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	総 合	114	115	90	112	114	114	こころ	—	—	—	—	—	—	こころ1	39	58	58	49	74	49	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医療機関医師(国)	124	145	165	116	116	111	A	令和3年度についても、患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。													
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																								
総 合	114	115	90	112	114	114																																																								
こころ	—	—	—	—	—	—																																																								
こころ1	39	58	58	49	74	49																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																								
医療機関医師(国)	124	145	165	116	116	111																																																								
			2	①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。	クリニカルパス管理委員会において、新規作成及び修正に係る審議、承認を行った。 クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>新規作成(件)</td><td>16</td><td>45</td><td>34</td><td>9</td><td>23</td><td>17</td></tr><tr><td>修正(件)</td><td>224</td><td>130</td><td>253</td><td>101</td><td>225</td><td>66</td></tr><tr><td>適用率(%)</td><td>66.3</td><td>62.6</td><td>63.3</td><td>63.9</td><td>68.3</td><td>68.8</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	新規作成(件)	16	45	34	9	23	17	修正(件)	224	130	253	101	225	66	適用率(%)	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3	68.8	A	クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行っている。 クリニカルパスの新規作成及び修正件数は、診療報酬改定(通常2年毎)の影響を受けるため、令和3年度は、令和2年度実績を下回った。																											
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																								
新規作成(件)	16	45	34	9	23	17																																																								
修正(件)	224	130	253	101	225	66																																																								
適用率(%)	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3	68.8																																																								
			3	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	令和3年度末現在 稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) 稼働2リニカルパス件数 (単位:件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>稼働2リニカルパス</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	稼働2リニカルパス	0	0	0	0	0	4	A	こころの医療センターにおいて導入が可能なクリニカルパス4件を導入済みである。今後、必要に応じ新規クリニカルパス作成もしくは既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供していく。																																									
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																								
稼働2リニカルパス	0	0	0	0	0	4																																																								
			4	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	稼働クリニカルパス件数 (単位:件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>48</td><td>48</td><td>51</td><td>51</td><td>52</td><td>61</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	稼働クリニカルパス	48	48	51	51	52	61	A	クリニカルパスについては、導入が可能なものに関して、積極的に導入し、新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供した。																																									
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																								
稼働クリニカルパス	48	48	51	51	52	61																																																								
				③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	※令和3年度は病棟工事に伴い、一時的に稼働させたクリニカルパスがあり件数が増加した。 チーム医療の推進 (カンファレンスの開催) 3年度末時点 <table><tr><th>区 分</th><th>チーム名</th><th>開催頻度</th><th>主要メンバー</th></tr><tr><td rowspan="10">総 合</td><td>栄養サポートチーム</td><td>2回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師</td></tr><tr><td>感染制御チーム</td><td>2回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td></tr><tr><td>救急搬送支援支援チーム</td><td>毎日</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>1回/月</td><td>医師、看護師、栄養士</td></tr><tr><td>呼吸ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、臨床工学士、理学療法士</td></tr><tr><td>認知症ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士</td></tr><tr><td>救急搬送前中後対応チーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、栄養士</td></tr><tr><td>排尿ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>栄養サポートチーム</td><td>週1回</td><td>医師・看護・栄養等</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>2回/週</td><td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>1回/月</td><td>医師・看護</td></tr><tr><td>救急搬送前中後対応チーム</td><td>随時</td><td>医師・看護・精神保健福祉士等</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>救急搬送前中後対応チーム</td><td>週1回</td><td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>2回/週</td><td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td></tr></table>	区 分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総 合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師	感染制御チーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	救急搬送支援支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学士、理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士	救急搬送前中後対応チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師	こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	2回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	救急搬送前中後対応チーム	随時	医師・看護・精神保健福祉士等	こころ	救急搬送前中後対応チーム	週1回	医師・看護・薬剤・臨床検査	感染防止対策チーム	2回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査		令和2年度、SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを行っている。 令和3年度についても、総合病院の新型コロナウイルス感染症専門病棟では、各部署から医師、看護師等を派遣し、多職種が対応に当たった。 各病院では、最良の医療を提供するため、診療科の枠を越えた多職種カンファレンスを実施した。 特に総合病院では、精神科医師の着任により、緩和ケアチーム及び精神科リエゾンチームによる診療報酬上の評価加算が高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献している。 多職種による病院横断的な活動体制が上記の成果に結びついている。
区 分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																											
総 合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師																																																											
	感染制御チーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																											
	救急搬送支援支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																											
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士																																																											
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学士、理学療法士																																																											
	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師																																																											
	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師																																																											
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士																																																											
	救急搬送前中後対応チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士																																																											
	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師																																																											
こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																											
	感染防止対策チーム	2回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																											
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																																											
	救急搬送前中後対応チーム	随時	医師・看護・精神保健福祉士等																																																											
こころ	救急搬送前中後対応チーム	週1回	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																											
	感染防止対策チーム	2回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																											

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3)		令和3年度実績 自己評価																																																																																														
											説明																																																																																														
						11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。		紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>94.7</td><td>94.1</td><td>92.6</td><td>90.9</td><td>90.7</td><td>91.1</td><td>94以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>52.5</td><td>46.5</td><td>43.7</td><td>47.7</td><td>44.8</td><td>46.2</td><td>53以上</td></tr></table>		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	紹介率	94.7	94.1	92.6	90.9	90.7	91.1	94以上	逆紹介率	52.5	46.5	43.7	47.7	44.8	46.2	53以上	B		県の発熱等診療医療機関に指定されたことで、紹介状なしのER患者が一時期増加したが、令和3年度は、紹介率・逆紹介率とも前年を上回った。 紹介率・逆紹介率ともに地域医療支援病院の承認基準を満たしており、地域医療支援病院として機能を果たした。 ただし、目標数値には達していないため、今後も地域医療機関との連携及び入退院支援センターの活動を通じた退院支援を図ることにより、紹介予約制を維持するとともに積極的な逆紹介を行っていく。																																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																		
紹介率	94.7	94.1	92.6	90.9	90.7	91.1	94以上																																																																																																		
逆紹介率	52.5	46.5	43.7	47.7	44.8	46.2	53以上																																																																																																		
						12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頭部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。		地域連携クリニカルパス (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>脳 卒 中</td><td>85</td><td>85</td><td>85</td><td>83</td><td>102</td><td>95</td></tr><tr><td>大 腿 骨 頭 部 骨 折</td><td>103</td><td>82</td><td>57</td><td>89</td><td>104</td><td>90</td></tr><tr><td>腎 臓 病</td><td>86</td><td>81</td><td>61</td><td>55</td><td>51</td><td>55</td></tr><tr><td>心 臓 病</td><td>114</td><td>109</td><td>124</td><td>122</td><td>102</td><td>135</td></tr><tr><td>がん</td><td>131</td><td>191</td><td>105</td><td>128</td><td>102</td><td>116</td></tr><tr><td>前立腺がん</td><td>0</td><td>9</td><td>10</td><td>16</td><td>20</td><td>35</td></tr><tr><td>虚血性心疾患</td><td>186</td><td>142</td><td>92</td><td>73</td><td>87</td><td>33</td></tr><tr><td>心房細動</td><td>-</td><td>1</td><td>7</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>慢性腎臓病</td><td>37</td><td>25</td><td>13</td><td>40</td><td>29</td><td>25</td></tr><tr><td>糖尿病</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>肝 がん</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>799</td><td>682</td><td>561</td><td>665</td><td>578</td><td>585</td></tr></table>		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	脳 卒 中	85	85	85	83	102	95	大 腿 骨 頭 部 骨 折	103	82	57	89	104	90	腎 臓 病	86	81	61	55	51	55	心 臓 病	114	109	124	122	102	135	がん	131	191	105	128	102	116	前立腺がん	0	9	10	16	20	35	虚血性心疾患	186	142	92	73	87	33	心房細動	-	1	7	4	1	2	慢性腎臓病	37	25	13	40	29	25	糖尿病	0	0	0	2	0	0	肝 がん	-	-	-	-	-	2	計	799	682	561	665	578	585	A		令和3年度も、地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めた。	
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																			
脳 卒 中	85	85	85	83	102	95																																																																																																			
大 腿 骨 頭 部 骨 折	103	82	57	89	104	90																																																																																																			
腎 臓 病	86	81	61	55	51	55																																																																																																			
心 臓 病	114	109	124	122	102	135																																																																																																			
がん	131	191	105	128	102	116																																																																																																			
前立腺がん	0	9	10	16	20	35																																																																																																			
虚血性心疾患	186	142	92	73	87	33																																																																																																			
心房細動	-	1	7	4	1	2																																																																																																			
慢性腎臓病	37	25	13	40	29	25																																																																																																			
糖尿病	0	0	0	2	0	0																																																																																																			
肝 がん	-	-	-	-	-	2																																																																																																			
計	799	682	561	665	578	585																																																																																																			
						13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。		ネットワーク実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>開示施設数</td><td>13</td><td>18</td><td>17</td><td>19</td><td>19</td><td>19</td></tr><tr><td>開示件数(新規)</td><td>19,795</td><td>28,373</td><td>28,732</td><td>34,400</td><td>38,368</td><td>44,144</td></tr><tr><td>開示件数(新規)</td><td>141</td><td>134</td><td>126</td><td>118</td><td>123</td><td>129</td></tr><tr><td>参照施設数</td><td>13</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td></tr><tr><td>病院</td><td>76</td><td>78</td><td>76</td><td>72</td><td>73</td><td>77</td></tr><tr><td>診療所</td><td>40</td><td>31</td><td>27</td><td>25</td><td>20</td><td>31</td></tr><tr><td>保健薬局</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>7</td><td>5</td><td>4</td></tr><tr><td>介護福祉施設</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	開示施設数	13	18	17	19	19	19	開示件数(新規)	19,795	28,373	28,732	34,400	38,368	44,144	開示件数(新規)	141	134	126	118	123	129	参照施設数	13	14	13	13	13	14	病院	76	78	76	72	73	77	診療所	40	31	27	25	20	31	保健薬局	10	9	8	7	5	4	介護福祉施設	2	2	2	1	1	1	A		令和3年度に静岡市清水区の桜ヶ丘病院が開示施設として参画する段取りを整えた。 また、令和3年度は、ネットワーク参画医療機関が一体となって、連携医療機関等に参画の呼びかけ及び広報を行っており、病院、診療所、薬局等、参照施設の新たな参画へ寄与した。																													
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																			
開示施設数	13	18	17	19	19	19																																																																																																			
開示件数(新規)	19,795	28,373	28,732	34,400	38,368	44,144																																																																																																			
開示件数(新規)	141	134	126	118	123	129																																																																																																			
参照施設数	13	14	13	13	13	14																																																																																																			
病院	76	78	76	72	73	77																																																																																																			
診療所	40	31	27	25	20	31																																																																																																			
保健薬局	10	9	8	7	5	4																																																																																																			
介護福祉施設	2	2	2	1	1	1																																																																																																			
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																													
県立総合病院においては、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率90％以上、入院患者満足度90％以上、外来患者満足度85％以上の達成を目指すこと。 県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、多様な精神疾患への対応や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率85％以上、外来患者満足度85％以上の達成を目指すこと。 県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円	県が掲げる6疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。	各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																														
ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																													
イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	14	・周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機構内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。	児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。 周産期医療における搬送実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>こども一総合</td><td>3</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>総合二こども</td><td>11</td><td>15</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>8</td></tr></table> こころの医療センターの精神科医師の総合病院への配置状況 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>こころ一総合</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr></table> こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>こころ一総合</td><td>2</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こども一総合	3	7	8	7	3	3	総合二こども	11	15	13	13	13	8	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こころ一総合	0	0	0	1	2	2	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こころ一総合	2	4	5	6	4	3	A	3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築している。 総合病院に常勤の精神科医師を2名配置し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施している。 また、こころの医療センターとこども病院の精神科医師が定期的に合同症例検討会を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う各病院の感染対策を優先させていることもあり、令和3年度は開催を見送った。引き続き相互連携を図るために、感染状況を踏まえた上で再開する。 こども病院から総合病院に母体搬送が行われている。同一法人のメリットを活かし、搬送時のスムーズな医師の応援派遣や設備の有効活用が図られた。 今後、総合病院精神科病棟の整備にあたり、精神科医師が中心となり、機構における精神科医療のあり方や役割分担を含めた検討を進める。																																																	
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																			
こども一総合	3	7	8	7	3	3																																																																																																			
総合二こども	11	15	13	13	13	8																																																																																																			
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																			
こころ一総合	0	0	0	1	2	2																																																																																																			
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																			
こころ一総合	2	4	5	6	4	3																																																																																																			

中期目標					中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3)							令和3年度実績 自己評価																																																																																																																																																																			
												説明																																																																																																																																																																										
市立3病院・住宅移行を支援する体制整備に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率75%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度90%以上の達成を目指すこと。 さらに、県立3病院は、結核、エイズ等の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。 その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組む、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。												ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。																																																																																																																																																																										
												ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。																																																																																																																																																																										
												ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。特に、SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。																																																																																																																																																																										
15												・新型コロナウイルスなどの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。 【総】・結核病棟を維持する。また各種感染症や難病、アレルギー疾患医療は県内医療機関との連携・協力関係を進める。 【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。 【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。																																																																																																																																																																										
総合 こども												S (総合) 結核病棟は50床で運用している。エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。 <table><tr><th colspan="7">(単位:人)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>結 核</td><td>119</td><td>108</td><td>111</td><td>92</td><td>95</td><td>85</td></tr></table> <table><tr><th colspan="7">(単位:件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>腎移植</td><td>14</td><td>18</td><td>14</td><td>17</td><td>12</td><td>10</td></tr><tr><td>造血幹細胞移植</td><td>11</td><td>8</td><td>17</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td></tr><tr><td>強角膜片作成</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>28</td><td>30</td><td>33</td><td>34</td><td>26</td><td>22</td></tr></table> (こども) 腎臓移植は、平成27年度に3件、平成28年度に2件、平成29年度に2件、平成30年度に1件、令和元年度に1件、令和2年度に10件だった。令和3年度は10件だった。 <table><tr><th colspan="7">(単位:件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td><td>8</td><td>2</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>2</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>5</td><td>7</td><td>4</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>11</td><td>10</td><td>14</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td></tr></table> <table><tr><th colspan="7">(単位:件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>結 合</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr></table> <table><tr><th colspan="7">(単位:件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td></tr></table> 新型コロナウイルス感染症受入体制 総 合 令和2年4月から8月まで20床(6A病棟) 令和2年9月から12月まで18床(3D病棟)(感染症病棟2床、個室4床を含む) 令和3年1月から9月まで27床(6A病棟)(透析病棟3床を含む) 令和3年10月から47床(6A病棟 29床、3D病棟 18床) 令和3年11月から16床(3D病棟16床) 令和4年2月から24床(6A病棟24床) こころ 令和2年4月から4床(2床はスタッフ用) こども 令和2年4月から令和3年7月まで4床(PICU) 令和3年8月から10床(PICU、MFICU、NICU、北4病棟)										(単位:人)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	結 核	119	108	111	92	95	85	(単位:件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	腎移植	14	18	14	17	12	10	造血幹細胞移植	11	8	17	14	13	12	強角膜片作成	3	4	2	3	1	0	計	28	30	33	34	26	22	(単位:件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	骨髄移植	4	2	5	2	8	2	臍帯血	2	1	3	3	2	2	自家末梢血	5	7	4	4	1	1	同種末梢血	0	0	2	1	1	0	計	11	10	14	10	12	6	(単位:件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	結 合	-	-	1	1	0	1	こども	3	4	4	3	2	2	(単位:件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	2	3	3	3	1	2
												(単位:人)																																																																																																																																																																										
												区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																				
結 核	119	108	111	92	95	85																																																																																																																																																																																
(単位:件)																																																																																																																																																																																						
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																
腎移植	14	18	14	17	12	10																																																																																																																																																																																
造血幹細胞移植	11	8	17	14	13	12																																																																																																																																																																																
強角膜片作成	3	4	2	3	1	0																																																																																																																																																																																
計	28	30	33	34	26	22																																																																																																																																																																																
(単位:件)																																																																																																																																																																																						
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																
骨髄移植	4	2	5	2	8	2																																																																																																																																																																																
臍帯血	2	1	3	3	2	2																																																																																																																																																																																
自家末梢血	5	7	4	4	1	1																																																																																																																																																																																
同種末梢血	0	0	2	1	1	0																																																																																																																																																																																
計	11	10	14	10	12	6																																																																																																																																																																																
(単位:件)																																																																																																																																																																																						
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																
結 合	-	-	1	1	0	1																																																																																																																																																																																
こども	3	4	4	3	2	2																																																																																																																																																																																
(単位:件)																																																																																																																																																																																						
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																
件数	2	3	3	3	1	2																																																																																																																																																																																
総合 こども												A (総合) 患者サポートセンター退院調整件数 <table><tr><th colspan="7">(単位:件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>2,204</td><td>3,217</td><td>6,810</td><td>5,217</td><td>6,007</td><td>6,517</td></tr></table> <table><tr><th colspan="7">(単位:件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>退院支援関係診療報酬算定件数実績</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td></tr><tr><td>退院調整加算(旧)</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td></tr><tr><td>退院調整加算1(新)</td><td>1,054</td><td>1,879</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td><td>---</td></tr><tr><td>入退院支援加算1等</td><td>---</td><td>---</td><td>4,816</td><td>3,987</td><td>5,403</td><td>6,008</td></tr><tr><td>退院時リハビリテーション費</td><td>601</td><td>703</td><td>830</td><td>1,113</td><td>3,520</td><td>2,957</td></tr><tr><td>計</td><td>1,655</td><td>2,584</td><td>5,246</td><td>5,100</td><td>8,923</td><td>8,965</td></tr></table> リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてより確かな支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。 リハビリテーション活動実施件数 (単位:件) <table><tr><th colspan="7">(単位:件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>精神科作業療法</td><td>1,649</td><td>5,990</td><td>5,494</td><td>4,493</td><td>5,107</td><td>4,561</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>4,448</td><td>5,955</td><td>6,023</td><td>4,462</td><td>2,653</td><td>1,388</td></tr><tr><td>計</td><td>12,097</td><td>11,947</td><td>11,517</td><td>8,955</td><td>8,080</td><td>5,949</td></tr></table> 訪問看護実施件数 (単位:件) <table><tr><th colspan="7">(単位:件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>訪問看護実施件数</td><td>3,522</td><td>4,006</td><td>3,986</td><td>3,704</td><td>3,941</td><td>3,643</td></tr><tr><td>(うち複数訪問)</td><td>147</td><td>76</td><td>31</td><td>38</td><td>46</td><td>37</td></tr></table>										(単位:件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	2,204	3,217	6,810	5,217	6,007	6,517	(単位:件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	退院支援関係診療報酬算定件数実績	---	---	---	---	---	---	退院調整加算(旧)	---	---	---	---	---	---	退院調整加算1(新)	1,054	1,879	---	---	---	---	入退院支援加算1等	---	---	4,816	3,987	5,403	6,008	退院時リハビリテーション費	601	703	830	1,113	3,520	2,957	計	1,655	2,584	5,246	5,100	8,923	8,965	(単位:件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	精神科作業療法	1,649	5,990	5,494	4,493	5,107	4,561	デイケア	4,448	5,955	6,023	4,462	2,653	1,388	計	12,097	11,947	11,517	8,955	8,080	5,949	(単位:件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	訪問看護実施件数	3,522	4,006	3,986	3,704	3,941	3,643	(うち複数訪問)	147	76	31	38	46	37																					
												(単位:件)																																																																																																																																																																										
												区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																				
件数	2,204	3,217	6,810	5,217	6,007	6,517																																																																																																																																																																																
(単位:件)																																																																																																																																																																																						
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																
退院支援関係診療報酬算定件数実績	---	---	---	---	---	---																																																																																																																																																																																
退院調整加算(旧)	---	---	---	---	---	---																																																																																																																																																																																
退院調整加算1(新)	1,054	1,879	---	---	---	---																																																																																																																																																																																
入退院支援加算1等	---	---	4,816	3,987	5,403	6,008																																																																																																																																																																																
退院時リハビリテーション費	601	703	830	1,113	3,520	2,957																																																																																																																																																																																
計	1,655	2,584	5,246	5,100	8,923	8,965																																																																																																																																																																																
(単位:件)																																																																																																																																																																																						
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																
精神科作業療法	1,649	5,990	5,494	4,493	5,107	4,561																																																																																																																																																																																
デイケア	4,448	5,955	6,023	4,462	2,653	1,388																																																																																																																																																																																
計	12,097	11,947	11,517	8,955	8,080	5,949																																																																																																																																																																																
(単位:件)																																																																																																																																																																																						
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																
訪問看護実施件数	3,522	4,006	3,986	3,704	3,941	3,643																																																																																																																																																																																
(うち複数訪問)	147	76	31	38	46	37																																																																																																																																																																																
総合 こども												B (総合) リハ実施実績 (単位:件) <table><tr><th colspan="7">(単位:件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>理学療法</td><td>17,504</td><td>18,944</td><td>17,309</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>6,010</td><td>6,656</td><td>6,039</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>8,656</td><td>7,306</td><td>7,901</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td></tr><tr><td>計</td><td>32,170</td><td>32,906</td><td>31,249</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td></tr></table>										(単位:件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3目標	理学療法	17,504	18,944	17,309	22,829	22,985	24,683	作業療法	6,010	6,656	6,039	4,546	3,813	7,794	言語聴覚療法	8,656	7,306	7,901	9,744	10,162	10,045	計	32,170	32,906	31,249	37,119	36,960	42,522																																																																																																																							
												(単位:件)																																																																																																																																																																										
												区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3目標																																																																																																																																																																				
理学療法	17,504	18,944	17,309	22,829	22,985	24,683																																																																																																																																																																																
作業療法	6,010	6,656	6,039	4,546	3,813	7,794																																																																																																																																																																																
言語聴覚療法	8,656	7,306	7,901	9,744	10,162	10,045																																																																																																																																																																																
計	32,170	32,906	31,249	37,119	36,960	42,522																																																																																																																																																																																
総合 こども												A (総合) リハビリ実施件数は令和3年度目標を超え、令和2年度実績を上回った。 特に理学療法・作業療法は前年度実績を大きく上回り、今後もさらなる質の向上を図っていく。																																																																																																																																																																										

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価																																																																							
		オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	19	・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	総合 <table><tr><td colspan="7">遺伝診療科受診者数 (単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>39</td><td>86</td><td>101</td><td>146</td><td>227</td><td>233</td></tr></table> 【参考】エキスパートパネル実施件数 (単位：人) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>38</td><td>46</td></tr></table> 【参考】遺伝カウンセリング件数 (単位：人) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>227</td><td>233</td></tr></table>	遺伝診療科受診者数 (単位：人)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	受診者数	39	86	101	146	227	233	区 分	28年度	3年度	受診者数	38	46	区 分	28年度	3年度	受診者数	227	233	S	臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーを始めとする遺伝分野の専門スタッフを配置したゲノム医療センターでは、令和3年度には臨床遺伝専門医を1名増員するなど体制を強化し、がんゲノム関連検査、遺伝性腫瘍症候群、遺伝性疾患等の診療を行っている。 遺伝診療に関する診療は増加傾向にあり、令和3年度の実診者数は、令和2年度実績を上回った。また、エキスパートパネルや遺伝カウンセリングの件数についても増加している。特に静岡がんセンターの連携病院(中部地区で唯一の施設)として令和2年度から実施しているエキスパートパネルの件数は、増加している。																																					
遺伝診療科受診者数 (単位：人)																																																																														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
受診者数	39	86	101	146	227	233																																																																								
区 分	28年度	3年度																																																																												
受診者数	38	46																																																																												
区 分	28年度	3年度																																																																												
受診者数	227	233																																																																												
		カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	30 ～ 22	【総】・こころの医療センター、こども病院と連携し、精神科病棟設置に向けた検討・準備を進める。 ・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。 ・精神科リエゾンチームの運営を開始し、精神科外来の業務を確立する。 【心】・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施する。 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診療や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	総合 <table><tr><td colspan="7">脳FDG-PET (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>135</td><td>147</td><td>161</td><td>160</td><td>128</td><td>142</td></tr></table> 認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>認知症ケア</td><td>803</td><td>10,494</td><td>8,306</td><td>7,163</td><td>6,202</td><td>5,246</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1,743</td><td>2,316</td><td>1,671</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>8,906</td><td>8,518</td><td>6,917</td></tr></table>	脳FDG-PET (単位：件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	実施件数	135	147	161	160	128	142	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	認知症ケア	803	10,494	8,306	7,163	6,202	5,246	精神科リエゾンチーム	-	-	-	1,743	2,316	1,671					8,906	8,518	6,917	A	令和3年度は、精神科病棟の整備に関する基本設計・実施設計に着手し、年度内に完了した。 脳疾患(てんかん、認知症)及び脳腫瘍の診断等に用いる脳FDG-PETの実施件数は年間150件程度であるが、令和3年度は令和2年度の減少分が戻っており、増加に転じた。 認知症ケア加算と精神科リエゾンチーム加算の算定件数の計については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、令和3年度も引き続きやや減少した。																					
脳FDG-PET (単位：件)																																																																														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
実施件数	135	147	161	160	128	142																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
認知症ケア	803	10,494	8,306	7,163	6,202	5,246																																																																								
精神科リエゾンチーム	-	-	-	1,743	2,316	1,671																																																																								
				8,906	8,518	6,917																																																																								
		キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	・新型コロナウイルスなどの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。 ・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。 ・【こころ】思春期及び小児科から成人への移行期における精神科医療体制の強化を図る。 ・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る。 ・【子】医療的ケア児のレスパイト対応のための受入れ体制を構築する。	こころ <table><tr><td colspan="7">認知症入院患者数 (単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>認知症入院患者</td><td>13</td><td>11</td><td>9</td><td>6</td><td>6</td><td>12</td></tr></table> 老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>老年期こころと物忘れ外来実施件数</td><td>573</td><td>441</td><td>483</td><td>387</td><td>330</td><td>340</td></tr></table>	認知症入院患者数 (単位：人)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	認知症入院患者	13	11	9	6	6	12	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	老年期こころと物忘れ外来実施件数	573	441	483	387	330	340	A	令和3年度のこころと物忘れ外来の件数は340件であった。また、認知症を主たる要因として入院となった患者数は12人であった。																																			
認知症入院患者数 (単位：人)																																																																														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
認知症入院患者	13	11	9	6	6	12																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
老年期こころと物忘れ外来実施件数	573	441	483	387	330	340																																																																								
						こども <table><tr><td colspan="7">発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>発達小児科外来延患者数</td><td>3,563</td><td>3,871</td><td>4,014</td><td>4,233</td><td>4,272</td><td>4,439</td></tr><tr><td>ペアレントトレーニング等件数</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> 新生児包括外来実績 (単位：件数) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>新生児包括外来実績</td><td>210</td><td>170</td><td>207</td><td>207</td><td>175</td><td>184</td></tr></table>	発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	発達小児科外来延患者数	3,563	3,871	4,014	4,233	4,272	4,439	ペアレントトレーニング等件数	10	10	10	10	0	0	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	新生児包括外来実績	210	170	207	207	175	184	A	令和3年度の発達小児外来患者数及び新生児包括外来実績は令和2年度と同水準で推移している。家族へのペアレントトレーニングは新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった。 また、地域医療の質の向上に向けて、東部地区に発達障害を扱う医師が少ないことから、令和元年度以降県と連携して東部地区の医師に対し研修を行っているが、令和3年度は主催である県が新型コロナ感染症の影響を考慮して伊豆地区の医療機関での小規模実施としたため、当院は依頼を受けていない。																												
発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)																																																																														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
発達小児科外来延患者数	3,563	3,871	4,014	4,233	4,272	4,439																																																																								
ペアレントトレーニング等件数	10	10	10	10	0	0																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
新生児包括外来実績	210	170	207	207	175	184																																																																								
						各病院 <table><tr><td colspan="7">移行期医療件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>こども→総合</td><td>626</td><td>650</td><td>610</td><td>666</td><td>995</td><td>1,367</td></tr><tr><td>こども→こころ</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>19</td><td>18</td><td>15</td></tr></table> 関連するカンファレンス等の開催実績 (単位：回) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> 移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数 <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td></tr></table> 医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数 <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td><td>-</td><td>-</td><td>5</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td></tr></table>	移行期医療件数 (単位：件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こども→総合	626	650	610	666	995	1,367	こども→こころ	-	-	-	19	18	15	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	-	-	2	5	0	0	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	-	-	1	6	4	3	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	-	-	5	3	6	6	S	新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されるなど、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。 令和3年8月、緊急事態宣言の発令を受け、総合病院では一時、感染症対応病棟を47床に増床すると、各病院において最大限の対応を行った。年度末時点では機構内で計38床を確保している。(総合24床) 移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合を検討している。これにより、患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。(総合) 令和2年2月に開設した成人先天性心疾患科では、こども病院循環器科との連携により、先天性心疾患や遺伝性心疾患を持つ患者を対象に診療を行っている。これにより、令和3年度の実診者数は、令和2年度実績を大きく上回った。(こども) こども病院との合同カンファレンスについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、病院の感染対策を優先していることもあって実施を見送った。 令和4年度中には機構内における県立3病院の精神科医療のあり方を検討し、時代のニーズに応えた医療提供体制の整備に取り組んでいく。(こども) 移行期医療に関する部署を組織化し、また、県からも移行期医療支援センター運営事業を受託している。県と連携して移行期医療支援体制の拡充に取り組んでいる。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所事業者の指定を受けた。期入所者の受入れ開始しており、今後も、受入れ体制の整備を図っていく。 加えて、引続き関係福祉機関、教育機関等における講習や会議への医師や看護師の出席等を行っている。
移行期医療件数 (単位：件)																																																																														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
こども→総合	626	650	610	666	995	1,367																																																																								
こども→こころ	-	-	-	19	18	15																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	-	-	2	5	0	0																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	-	-	1	6	4	3																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	-	-	5	3	6	6																																																																								

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価																																																																						
		ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	24	・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。	このころの医療センターにサーバ棟を建設した。3病院統合した医療情報システムを導入する予定。 こども病院では、北5病棟改修(小児がん患者治療環境の向上)工事を行い、令和3年7月に工事が完了した。	令和3年度の減価償却費は36億円となった(前年度比▲3億円)。令和4年度以降は再び増加傾向となる見込みであり、経営状況を見ながら適切に投資判断を行っている。 また、質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病棟の医療情報システムを統合し、医療情報の共有を進めており、令和3年7月には、このころの医療センターにサーバ棟が完成した。 なお、サーバ棟の建設及び医療情報システム構築の財源には目的積立金を充当している。 総合病院では、北館1階へ移設した高度救命救急センターの跡地(循環器病センター1階)に中央処置室をリニューアル整備し、令和3年7月から運用を開始した。また、老朽化していた外来及び病棟トイレの男女及び汚物処理室の区分けや洋式化等への改修を行った。このころの医療センターでは、3病院の医療情報システム用のサーバを配置するサーバ棟の新築工事を令和2年度から令和3年度にかけて実施し、7月に完成した。器械備品の購入としては、北2病棟の監視カメラを更新し、病棟の運営の効率化を図った。 こども病院では、北5病棟改修(小児がん患者治療環境の向上)工事を行い、令和3年7月に工事が完了した。 なお、一部施設整備が中期計画より遅れているものの、診療の継続に影響は与えていない。今後も計画的な整備の実施に努める。																																																																						
		ケ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	—	—	—	—																																																																						
	県立総合病院	① 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療 <業務予定量> 病床数 712床 一般病床 662床 結核病床 50床 外来患者 460,763人 入院患者 226,231人	① 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療 <業務予定量> 病床数 712床 一般病床 662床 結核病床 50床 外来患者 460,763人 入院患者 226,231人	25		入院・外来患者数 (単位:人)	B																																																																						
		・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、スプリント内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitra Clip)等の低侵襲で高度な手術の実施	26 27 28	①冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。 ②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。 ③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	CCU/ICUは平成30年9月より14床で運用している。 CCU／ICU稼働率 (単位:%) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>100</td><td>113.1</td><td>119.1</td><td>100.3</td><td>88.6</td><td>95.7</td></tr><tr><td>入室患者数(人)</td><td>722</td><td>780</td><td>771</td><td>866</td><td>802</td><td>925</td></tr><tr><td>1日平均(人)</td><td>11.51</td><td>13.61</td><td>14.3</td><td>14.0</td><td>12.4</td><td>13.4</td></tr></table> 脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位:件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>52</td><td>42</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td></tr></table> 超急性期脳卒中加算 (単位:件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>15</td><td>27</td><td>16</td><td>35</td><td>28</td><td>32</td></tr></table> 糖尿病透析予防指導管理科 (単位:件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>132</td><td>75</td><td>145</td><td>285</td><td>123</td><td>67</td></tr></table> 対象患者の重複する腎代替療法治療管理科の算定件数は211件であり、合算した算定件数は令和2年度を上回っている。	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	稼働率(%)	100	113.1	119.1	100.3	88.6	95.7	入室患者数(人)	722	780	771	866	802	925	1日平均(人)	11.51	13.61	14.3	14.0	12.4	13.4	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	算定件数	52	42	62	83	102	92	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	算定件数	15	27	16	35	28	32	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	算定件数	132	75	145	285	123	67	A ICU/CCUの稼働率及び1日平均入室患者数は、新型コロナウイルス感染症の重症化に伴い、一時的に稼働の制限を行ったが、令和2年度を上回る患者数となった。 今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めつつ、稼働率の向上及び特定集中治療室管理科の算定率向上に努める。 脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数について、令和3年度は令和2年度実績をやや下回る結果となった。引き続き、地域の医療機関等との連携により、パスの適用を推進し、円滑な運用に努める。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。 糖尿病透析予防指導管理科は糖尿病・内分泌外科外来、そらま外来、透析室における指導により算定する。 令和3年度の算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、人員配置の変更、診療報酬改定で新設された腎代替療法治療管理科との対象患者の重複により、令和2年度実績を下回る。なお、腎代替療法治療管理科の算定件数は211件であり、合算した算定件数は令和2年度を上回った。
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																							
稼働率(%)	100	113.1	119.1	100.3	88.6	95.7																																																																							
入室患者数(人)	722	780	771	866	802	925																																																																							
1日平均(人)	11.51	13.61	14.3	14.0	12.4	13.4																																																																							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																							
算定件数	52	42	62	83	102	92																																																																							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																							
算定件数	15	27	16	35	28	32																																																																							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																							
算定件数	132	75	145	285	123	67																																																																							

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価																																																																																																																																								
				29	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	ハイブリッド手術室稼働状況 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>ハイブリッド手術室使用件数</td><td>163</td><td>479</td><td>706</td><td>486</td><td>484</td><td>512</td><td>200以上</td></tr><tr><td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td><td>28</td><td>67</td><td>74</td><td>67</td><td>65</td><td>105</td><td>—</td></tr><tr><td>ステントグラフト挿入 ※上記の内数</td><td>107</td><td>91</td><td>91</td><td>125</td><td>76</td><td>99</td><td>—</td></tr><tr><td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td><td>—</td><td>—</td><td>12</td><td>24</td><td>14</td><td>21</td><td>—</td></tr></table> 参考 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>P.C.I</td><td>517</td><td>447</td><td>450</td><td>368</td><td>363</td><td>349</td></tr><tr><td>アブレーション</td><td>229</td><td>256</td><td>253</td><td>284</td><td>267</td><td>305</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	ハイブリッド手術室使用件数	163	479	706	486	484	512	200以上	TAVI実施件数 ※上記の内数	28	67	74	67	65	105	—	ステントグラフト挿入 ※上記の内数	107	91	91	125	76	99	—	Mitra Clip件数 ※上記の内数	—	—	12	24	14	21	—	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	P.C.I	517	447	450	368	363	349	アブレーション	229	256	253	284	267	305	A	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClip等の手術に使用される。 ハイブリッド手術室の稼働状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇する傾向である。 令和3年度の稼働状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和2年度実績を上回った。																																																																										
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																								
ハイブリッド手術室使用件数	163	479	706	486	484	512	200以上																																																																																																																																								
TAVI実施件数 ※上記の内数	28	67	74	67	65	105	—																																																																																																																																								
ステントグラフト挿入 ※上記の内数	107	91	91	125	76	99	—																																																																																																																																								
Mitra Clip件数 ※上記の内数	—	—	12	24	14	21	—																																																																																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
P.C.I	517	447	450	368	363	349																																																																																																																																									
アブレーション	229	256	253	284	267	305																																																																																																																																									
	・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	30	総合	がん手術件数 (単位: 件、%) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>胃がん</td><td>136</td><td>163</td><td>340</td><td>366</td><td>351</td><td>351</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>264</td><td>287</td><td>687</td><td>696</td><td>759</td><td>776</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>135</td><td>115</td><td>366</td><td>293</td><td>328</td><td>253</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>136</td><td>149</td><td>134</td><td>194</td><td>134</td><td>180</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>343</td><td>352</td><td>449</td><td>511</td><td>440</td><td>454</td></tr><tr><td>その他</td><td>1,131</td><td>1,210</td><td>1,241</td><td>1,349</td><td>1,355</td><td>1,630</td></tr><tr><td>がん手術合計</td><td>2,145</td><td>2,276</td><td>3,217</td><td>3,376</td><td>3,446</td><td>3,646</td></tr><tr><td>手術全体</td><td>7,764</td><td>8,406</td><td>8,651</td><td>9,225</td><td>8,513</td><td>8,798</td></tr><tr><td>がん手術割合</td><td>27.9</td><td>27.1</td><td>37.2</td><td>38.8</td><td>40.5</td><td>41.4</td></tr></table> ※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上 内臓鏡検査・処置 (単位: 件) <table><tr><th>年度</th><th>上部消化器検査</th><th>下部消化器検査</th><th>ERCP検査</th><th>気管支鏡検査</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>元年度</td><td>10,489</td><td>2,813</td><td>445</td><td>389</td><td>56</td><td>14,192</td></tr><tr><td>2年度</td><td>9,817</td><td>5,771</td><td>404</td><td>391</td><td>38</td><td>15,321</td></tr><tr><td>3年度</td><td>10,540</td><td>6,749</td><td>420</td><td>350</td><td>54</td><td>14,113</td></tr></table> 放射線治療 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>16,330</td><td>15,795</td><td>15,772</td><td>1,100</td><td>1,104</td><td>1,257</td><td>800</td></tr></table> ※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	胃がん	136	163	340	366	351	351	大腸がん	264	287	687	696	759	776	肝がん	135	115	366	293	328	253	肺がん	136	149	134	194	134	180	乳がん	343	352	449	511	440	454	その他	1,131	1,210	1,241	1,349	1,355	1,630	がん手術合計	2,145	2,276	3,217	3,376	3,446	3,646	手術全体	7,764	8,406	8,651	9,225	8,513	8,798	がん手術割合	27.9	27.1	37.2	38.8	40.5	41.4	年度	上部消化器検査	下部消化器検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2年度	9,817	5,771	404	391	38	15,321	3年度	10,540	6,749	420	350	54	14,113	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	件数	16,330	15,795	15,772	1,100	1,104	1,257	800	31	総合	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	総合	外来化学療法加算 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>11,171</td><td>11,680</td><td>12,159</td><td>12,707</td><td>12,660</td><td>12,812</td><td>12,000以上</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	件数	11,171	11,680	12,159	12,707	12,660	12,812	12,000以上	A	外来化学療法については、外来化学療法センターの移転リニューアルや前日採血の運用を導入するなど、患者の療養環境や利便性が大幅に向上し、令和3年度の外来化学療法加算算定件数は、令和2年度実績を上回った。
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
胃がん	136	163	340	366	351	351																																																																																																																																									
大腸がん	264	287	687	696	759	776																																																																																																																																									
肝がん	135	115	366	293	328	253																																																																																																																																									
肺がん	136	149	134	194	134	180																																																																																																																																									
乳がん	343	352	449	511	440	454																																																																																																																																									
その他	1,131	1,210	1,241	1,349	1,355	1,630																																																																																																																																									
がん手術合計	2,145	2,276	3,217	3,376	3,446	3,646																																																																																																																																									
手術全体	7,764	8,406	8,651	9,225	8,513	8,798																																																																																																																																									
がん手術割合	27.9	27.1	37.2	38.8	40.5	41.4																																																																																																																																									
年度	上部消化器検査	下部消化器検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																																																									
元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																																																									
2年度	9,817	5,771	404	391	38	15,321																																																																																																																																									
3年度	10,540	6,749	420	350	54	14,113																																																																																																																																									
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																								
件数	16,330	15,795	15,772	1,100	1,104	1,257	800																																																																																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																								
件数	11,171	11,680	12,159	12,707	12,660	12,812	12,000以上																																																																																																																																								
			②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	32	総合	緩和ケアチーム介入症例数 (単位: 件) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>症例数</td><td>372</td><td>389</td><td>418</td><td>527</td><td>482</td><td>548</td></tr></table> 緩和ケア診療加算算定件数 (単位: 件) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>—</td><td>—</td><td>812</td><td>5249</td><td>4,417</td><td>5,308</td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	症例数	372	389	418	527	482	548	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	—	—	812	5249	4,417	5,308	A	緩和ケアチームは、緩和医療科医師2名、精神科医師2名、がんに関連する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。 緩和ケアチーム介入症例数及び緩和ケア診療加算算定件数は、いずれも令和2年度実績を大幅に上回った。 また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設け、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。																																																																																																											
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
症例数	372	389	418	527	482	548																																																																																																																																									
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
件数	—	—	812	5249	4,417	5,308																																																																																																																																									
			③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	33	総合	がん相談件数 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>がん相談</td><td>4,587</td><td>5,896</td><td>4,374</td><td>4,742</td><td>4,458</td><td>3,493</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	がん相談	4,587	5,896	4,374	4,742	4,458	3,493	A	がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。 がん相談件数については、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相談件数が減少傾向であるため、令和2年度実績を下回った。																																																																																																																									
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
がん相談	4,587	5,896	4,374	4,742	4,458	3,493																																																																																																																																									
			④ロボット支援手術の件数増加に努める	34	総合	ダ・ヴィンチ使用手術件数 (単位: 件) <table><tr><th>診療科</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>泌尿器科</td><td>102</td><td>122</td><td>112</td><td>104</td><td>135</td><td>132</td><td>—</td></tr><tr><td>婦人科</td><td>1</td><td>4</td><td>18</td><td>25</td><td>23</td><td>25</td><td>—</td></tr><tr><td>消化器外科</td><td>9</td><td>30</td><td>83</td><td>70</td><td>82</td><td>92</td><td>—</td></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>3</td><td>12</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>112</td><td>156</td><td>213</td><td>199</td><td>243</td><td>261</td><td>200以上</td></tr></table> ダ・ヴィンチ使用術者数 (単位: 人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>人数</td><td>6</td><td>7</td><td>11</td><td>12</td><td>16</td><td>23</td></tr></table>	診療科	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	泌尿器科	102	122	112	104	135	132	—	婦人科	1	4	18	25	23	25	—	消化器外科	9	30	83	70	82	92	—	心臓血管外科	—	—	—	—	3	12	—	計	112	156	213	199	243	261	200以上	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	人数	6	7	11	12	16	23	S	ダ・ヴィンチ使用手術は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。 令和4年3月にダ・ヴィンチを使用して県内で初めて保険診療で腹腔鏡下腰部尾部切除術を開始し、低侵襲な手術の提供が可能になった。 ダ・ヴィンチ使用手術件数については、令和3年度は消化器外科及び心臓血管外科の手術件数が増加しており、目標値及び令和2年度実績を上回った。																																																																									
診療科	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																								
泌尿器科	102	122	112	104	135	132	—																																																																																																																																								
婦人科	1	4	18	25	23	25	—																																																																																																																																								
消化器外科	9	30	83	70	82	92	—																																																																																																																																								
心臓血管外科	—	—	—	—	3	12	—																																																																																																																																								
計	112	156	213	199	243	261	200以上																																																																																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
人数	6	7	11	12	16	23																																																																																																																																									
	・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を整備する。	○認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制の整備 ①認知症等に対応する医療提供体制の構築に向けた取組	Ns.20	35	総合	こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師2名の兼任により、精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働しながら治療を行っている。 また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、精神科病棟(精神科身体合併症病棟)の整備に関する基本設計・実施設計を実施している。	A	令和3年度は、精神科病棟の整備に関する基本設計・実施設計に着手し、年度内に完了した。																																																																																																																																							
	・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。	○先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用による適切な治療の提供 ①ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の推進 ②高度放射線治療の推進	先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する ①Ns.29 ②Ns.30	36	総合	手術件数 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>手術件数</td><td>8,536</td><td>9,115</td><td>9,327</td><td>9,814</td><td>9,126</td><td>9,395</td><td>9,000以上</td></tr></table> HCU延患者数 (単位: 人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>人数</td><td>3,872</td><td>5,875</td><td>6,872</td><td>6,426</td><td>5,569</td><td>5,759</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	手術件数	8,536	9,115	9,327	9,814	9,126	9,395	9,000以上	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	人数	3,872	5,875	6,872	6,426	5,569	5,759	B	令和3年度の手術件数は目標値は下回りが、令和2年度実績を上回った。それに伴い、HCU延患者数についても令和2年度実績を上回った。																																																																																																									
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																								
手術件数	8,536	9,115	9,327	9,814	9,126	9,395	9,000以上																																																																																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
人数	3,872	5,875	6,872	6,426	5,569	5,759																																																																																																																																									

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価																																																																													
		・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。	○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実	37	①②医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	医師の変則勤務状況(単位：%) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>該当者(人)</td><td>1,634</td><td>1,722</td><td>1,717</td><td>1,784</td><td>1,893</td><td>1,838</td></tr><tr><td>利用者(人)</td><td>961</td><td>889</td><td>966</td><td>1,047</td><td>1,224</td><td>1,139</td></tr><tr><td>利用率(%)</td><td>58.8</td><td>51.6</td><td>56.3</td><td>58.7</td><td>64.7</td><td>61.9</td></tr></table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	該当者(人)	1,634	1,722	1,717	1,784	1,893	1,838	利用者(人)	961	889	966	1,047	1,224	1,139	利用率(%)	58.8	51.6	56.3	58.7	64.7	61.9	A																																																	
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																														
該当者(人)	1,634	1,722	1,717	1,784	1,893	1,838																																																																														
利用者(人)	961	889	966	1,047	1,224	1,139																																																																														
利用率(%)	58.8	51.6	56.3	58.7	64.7	61.9																																																																														
				38	③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。	救急科医師9名体制で稼働 救急車受入率(単位：%) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>当番日</td><td>96.5</td><td>94.6</td><td>97.1</td><td>90.9</td><td>87.7</td><td>94.4</td></tr><tr><td>全日</td><td>93.1</td><td>94.9</td><td>97.4</td><td>92.3</td><td>92.6</td><td>94.4</td></tr></table> 特殊疾患患者受入数(単位：件) <table><tr><th>疾病名</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>重症熱傷</td><td>12</td><td>12</td><td>14</td><td>11</td><td>9</td><td>4</td></tr><tr><td>重症外傷</td><td>446</td><td>539</td><td>378</td><td>380</td><td>431</td><td>335</td></tr><tr><td>急性中激</td><td>18</td><td>18</td><td>30</td><td>46</td><td>26</td><td>39</td></tr><tr><td>病院外心停止</td><td>207</td><td>207</td><td>186</td><td>174</td><td>201</td><td>182</td></tr><tr><td>計</td><td>683</td><td>776</td><td>608</td><td>611</td><td>667</td><td>560</td></tr></table> ドクターカー出動状況(単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>7</td><td>10</td><td>12</td><td>12</td><td>8</td><td>11</td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	当番日	96.5	94.6	97.1	90.9	87.7	94.4	全日	93.1	94.9	97.4	92.3	92.6	94.4	疾病名	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	重症熱傷	12	12	14	11	9	4	重症外傷	446	539	378	380	431	335	急性中激	18	18	30	46	26	39	病院外心停止	207	207	186	174	201	182	計	683	776	608	611	667	560	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	7	10	12	12	8	11	A
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																														
当番日	96.5	94.6	97.1	90.9	87.7	94.4																																																																														
全日	93.1	94.9	97.4	92.3	92.6	94.4																																																																														
疾病名	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																														
重症熱傷	12	12	14	11	9	4																																																																														
重症外傷	446	539	378	380	431	335																																																																														
急性中激	18	18	30	46	26	39																																																																														
病院外心停止	207	207	186	174	201	182																																																																														
計	683	776	608	611	667	560																																																																														
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																														
件数	7	10	12	12	8	11																																																																														
		・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率90%以上の維持 ③患者満足度の向上	39	①No.36 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8	病床稼働率(単位：%) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>一般病棟</td><td>90.4</td><td>93.5</td><td>93.9</td><td>91.1</td><td>84.8</td><td>93.2</td></tr><tr><td>全体</td><td>86.1</td><td>89.5</td><td>89.8</td><td>86.6</td><td>80.7</td><td>85.7</td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	一般病棟	90.4	93.5	93.9	91.1	84.8	93.2	全体	86.1	89.5	89.8	86.6	80.7	85.7	B																																																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																														
一般病棟	90.4	93.5	93.9	91.1	84.8	93.2																																																																														
全体	86.1	89.5	89.8	86.6	80.7	85.7																																																																														
		【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)	【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例件数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ダヴィンチ使用手術件数(総合)	—	—	—	—																																																																													
		県立こころの医療センター	(4) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 280床 精神病床 280床 外来患者 40,208人 入院患者 52,904人	40	—	入院・外来患者数(単位：人) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>56,906</td><td>55,144</td><td>57,217</td><td>54,037</td><td>53,246</td><td>49,296</td><td>52,904</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>40,756</td><td>41,140</td><td>42,454</td><td>39,647</td><td>37,285</td><td>36,692</td><td>40,208</td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院患者数	56,906	55,144	57,217	54,037	53,246	49,296	52,904	外来患者数	40,756	41,140	42,454	39,647	37,285	36,692	40,208	B																																																					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																													
入院患者数	56,906	55,144	57,217	54,037	53,246	49,296	52,904																																																																													
外来患者数	40,756	41,140	42,454	39,647	37,285	36,692	40,208																																																																													
		・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者が常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 年4回発行し、関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」や、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し、周知を図っている。 精神科救急ダイヤル件数(単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>全相談件数</td><td>3,956</td><td>3,020</td><td>2,718</td><td>3,957</td><td>3,649</td><td>1,857</td></tr><tr><td>うち時間外</td><td>2,082</td><td>2,365</td><td>1,482</td><td>2,153</td><td>2,678</td><td>1,288</td></tr></table> 時間外における救急診療件数(単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>—</td><td>270</td><td>331</td><td>390</td><td>335</td><td>313</td><td>300以上</td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	全相談件数	3,956	3,020	2,718	3,957	3,649	1,857	うち時間外	2,082	2,365	1,482	2,153	2,678	1,288	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	件数	—	270	331	390	335	313	300以上	A																																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																														
全相談件数	3,956	3,020	2,718	3,957	3,649	1,857																																																																														
うち時間外	2,082	2,365	1,482	2,153	2,678	1,288																																																																														
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																													
件数	—	270	331	390	335	313	300以上																																																																													
				42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療・早期退院の実践により、救急病棟(南2・北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。 新規患者率(単位：%) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>救急・南2</td><td>400以上</td><td>79.2</td><td>72.6</td><td>71.3</td><td>79.4</td><td>61.7</td></tr><tr><td>救急・北2</td><td>400以上</td><td>76.3</td><td>74.7</td><td>72.3</td><td>64.8</td><td>50.9</td></tr></table> 新規患者3ヶ月以内在宅移行率(単位：%) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>救急・南2</td><td>400以上</td><td>71.3</td><td>72.6</td><td>73.0</td><td>78.7</td><td>50.3</td></tr><tr><td>救急・北2</td><td>400以上</td><td>69.1</td><td>70.4</td><td>70.4</td><td>67.7</td><td>49.0</td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	救急・南2	400以上	79.2	72.6	71.3	79.4	61.7	救急・北2	400以上	76.3	74.7	72.3	64.8	50.9	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	救急・南2	400以上	71.3	72.6	73.0	78.7	50.3	救急・北2	400以上	69.1	70.4	70.4	67.7	49.0	A																																			
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																														
救急・南2	400以上	79.2	72.6	71.3	79.4	61.7																																																																														
救急・北2	400以上	76.3	74.7	72.3	64.8	50.9																																																																														
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																														
救急・南2	400以上	71.3	72.6	73.0	78.7	50.3																																																																														
救急・北2	400以上	69.1	70.4	70.4	67.7	49.0																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価																																																																									
							説明																																																																								
	・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	43	①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施	m-ECTの治療を令和3年度も継続して積極的に実施している。 <table><tr><th colspan="8">m-ECT実施件数 (単位:人)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>属性数(件)</td><td>695</td><td>693</td><td>832</td><td>870</td><td>737</td><td>827</td><td>700以上</td></tr><tr><td>実施者数</td><td>54</td><td>59</td><td>69</td><td>79</td><td>59</td><td>69</td><td>—</td></tr><tr><td>中津川市</td><td>51</td><td>54</td><td>58</td><td>62</td><td>59</td><td>53</td><td>—</td></tr><tr><td>(静岡市)</td><td>43</td><td>40</td><td>43</td><td>50</td><td>48</td><td>43</td><td>—</td></tr><tr><td>東部地区</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>—</td></tr><tr><td>西部地区</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>—</td></tr><tr><td>その他</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr></table>	m-ECT実施件数 (単位:人)								区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	属性数(件)	695	693	832	870	737	827	700以上	実施者数	54	59	69	79	59	69	—	中津川市	51	54	58	62	59	53	—	(静岡市)	43	40	43	50	48	43	—	東部地区	2	3	3	3	3	3	—	西部地区	2	3	3	3	3	3	—	その他	0	0	3	3	0	0	—	A	令和3年度の新規患者率は前年度より増加しており、新規患者3か月以内在宅移行率も前年度を上回った。 また、救急病棟や急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院科の施設基準を維持した。
					m-ECT実施件数 (単位:人)																																																																										
					区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																			
					属性数(件)	695	693	832	870	737	827	700以上																																																																			
					実施者数	54	59	69	79	59	69	—																																																																			
中津川市	51	54	58	62	59	53	—																																																																								
(静岡市)	43	40	43	50	48	43	—																																																																								
東部地区	2	3	3	3	3	3	—																																																																								
西部地区	2	3	3	3	3	3	—																																																																								
その他	0	0	3	3	0	0	—																																																																								
			44	①先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。	平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、令和3年度現在65名に対して継続投与中である。 クロザピンによる治療体制が整い、平成22年4月27日、クロザリン適正使用委員会において、CPMS(クロザリン患者モニタリングサービス)登録機関として承認された。 静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。 <table><tr><th colspan="8">クロザピン投与患者数 (単位:人)</th></tr><tr><th>項目</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>患者数</td><td>39</td><td>44</td><td>55</td><td>60</td><td>65</td><td>73</td><td>60以上</td></tr></table>	クロザピン投与患者数 (単位:人)								項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	患者数	39	44	55	60	65	73	60以上	A	令和3年度の投与患者数は73人となり、年度目標を大きく上回った。 また、実施にあたっては、院内で患者の副作用のモニタリングを行い、薬品の適正使用に取組み、治療効果と安全性の向上に努めている。 診療に当たることの出来る医療機関は、精神科病床を有する病院の血液内科の医師という条件を満たす必要があり、現在は静岡市立病院との提携のみとなっているが今後県立総合病院において精神科病床が設置された後には、血液内科との連携も検討していく。																																																
					クロザピン投与患者数 (単位:人)																																																																										
					項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																			
					患者数	39	44	55	60	65	73	60以上																																																																			
								45	①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。 <table><tr><th colspan="8">心理教育参加者数 (単位:人)</th></tr><tr><th>項目</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>206</td><td>230</td><td>210</td><td>154</td><td>36</td><td>93</td><td>—</td></tr></table> <table><tr><th colspan="8">心理教育研修会参加者数 (単位:人)</th></tr><tr><th>項目</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>142</td><td>151</td><td>130</td><td>66</td><td>35</td><td>27</td><td>—</td></tr></table>	心理教育参加者数 (単位:人)								項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	参加者数	206	230	210	154	36	93	—	心理教育研修会参加者数 (単位:人)								項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	参加者数	142	151	130	66	35	27	—	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴って外部活動が縮小となっており、研修参加者数はほぼ前年並となった。 効率的な研修の実施に努め、高度医療への積極的な取組の実施に対する意識の高揚に努めている。																			
心理教育参加者数 (単位:人)																																																																															
項目	28年度	29年度	30年度	元年度						2年度	3年度	3目標																																																																			
参加者数	206	230	210	154						36	93	—																																																																			
心理教育研修会参加者数 (単位:人)																																																																															
項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																								
参加者数	142	151	130	66	35	27	—																																																																								
	・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	46	①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。平成22年2月の支援開始以来延べ26名の支援活動を実施している。令和3年度末現在で、入院患者1名及び外来患者4名の支援を継続している。 <table><tr><th colspan="8">ACT実施状況</th></tr><tr><th></th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>対象者</td><td>外来 7人</td><td>9人</td><td>11人</td><td>10人</td><td>4人</td><td>4人</td><td>—</td></tr><tr><td></td><td>入院 0人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>2人</td><td>1人</td><td>1人</td><td>—</td></tr><tr><td>活動状況</td><td colspan="6">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td><td>—</td></tr><tr><td></td><td colspan="6">多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td><td>—</td></tr></table>	ACT実施状況									28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	対象者	外来 7人	9人	11人	10人	4人	4人	—		入院 0人	0人	0人	2人	1人	1人	—	活動状況	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						—		多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス						—	A	令和3年度末現在で、入院患者1人及び外来患者4人の外来患者に対して実施している。 今後の感染状況を踏まえつつ、患者の地域への移行を進めていく必要がある。																								
					ACT実施状況																																																																										
						28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																			
					対象者	外来 7人	9人	11人	10人	4人	4人	—																																																																			
						入院 0人	0人	0人	2人	1人	1人	—																																																																			
活動状況	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						—																																																																								
	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス						—																																																																								
	・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療としての役割を積極的に果たす。	○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与	47	①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	令和3年度は4名の退院、5名の新規入院があり、1年を通じてほぼ満床となり、一時は特定病床により患者の受入れを行った結果、100%を超える稼働率となった。 <table><tr><th colspan="8">医療観察新病棟の稼働状況 (単位:床・%)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>病床数(床)</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>—</td></tr><tr><td>病床利用率(%)</td><td>99.1</td><td>96.9</td><td>96.9</td><td>84.1</td><td>98.9</td><td>102.4</td><td>—</td></tr></table>	医療観察新病棟の稼働状況 (単位:床・%)								区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	—	病床利用率(%)	99.1	96.9	96.9	84.1	98.9	102.4	—	A	令和3年度は、12床がほぼ満床で推移しており、一時期は特定病床での受入れを行った結果、稼働率が102.4%となった。																																								
					医療観察新病棟の稼働状況 (単位:床・%)																																																																										
					区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																			
					病床数(床)	12	12	12	12	12	12	—																																																																			
					病床利用率(%)	99.1	96.9	96.9	84.1	98.9	102.4	—																																																																			
	・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。	○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び、小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組	48	①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・小児から成人への移行期における精神科医療の提供体制の整備を図る。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。	令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リエンジンを強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。 思春期病棟を含めた病棟全体の整備については、3病院の精神科医療提供体制のあり方を踏まえて協議していく。	A	令和2年4月以降、総合病院の精神科医が2名体制となり、身体合併症の精神科リエンジン機能がより強化された。 令和3年度は、県の主催する「児童福祉と児童思春期精神医療との連携に関する懇話会」において、喫緊の課題となっている「小児から成人への移行期における医療提供体制のあり方」について検討を行っている。 今後は懇話会での検討結果を踏まえ、機構内(県立3病院)の精神科医療のあり方を検討していく。																																																																								
						・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①思春期病棟の整備に向けた検討 ②クロザピン投与患者数の増加 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度の向上	49	①No.48 ②No.44 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、多職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8	<table><tr><th colspan="8">病床稼働率 (単位:%)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>稼働率</td><td>90.6</td><td>87.9</td><td>91.1</td><td>85.8</td><td>84.8</td><td>78.5</td><td>85以上</td></tr></table>	病床稼働率 (単位:%)								区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	稼働率	90.6	87.9	91.1	85.8	84.8	78.5	85以上	B	新型コロナウイルス感染症拡大対策として、個室病床4床を新型コロナウイルス感染症対策用の病床としており、一般稼働が出来ていない。 加えて、患者の入院に際してはHCU(ハイケアの個室)を前提としたため、初期入院の受入れが狭限化していた。 また、4床室入院が難しい重症患者も多く、4床室の稼働率が低かった。																																											
										病床稼働率 (単位:%)																																																																					
										区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																														
										稼働率	90.6	87.9	91.1	85.8	84.8	78.5	85以上																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価																																																																																																																																																																		
	【目標値】 ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ)	【目標値】県立こころの医療センター ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ) ・時間外診療件数(こころ) ・m-ECT実施件数(こころ)	—	—	—	—																																																																																																																																																																		
	県立こども病院	(ウ) 県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取り組む。 県民に提供する医療 <業務予定量> <table><tr><td>病床数</td><td>279床</td></tr><tr><td>一般病床</td><td>243床</td></tr><tr><td>精神病床</td><td>36床</td></tr><tr><td>外来患者</td><td>115,060人</td></tr><tr><td>入院患者</td><td>75,693人</td></tr></table>	病床数	279床	一般病床	243床	精神病床	36床	外来患者	115,060人	入院患者	75,693人	50	—	入院・外来患者数 (単位: 人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>77,890</td><td>75,580</td><td>75,305</td><td>75,736</td><td>65,681</td><td>66,476</td><td>75,693</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>104,666</td><td>105,765</td><td>110,185</td><td>111,574</td><td>105,773</td><td>121,675</td><td>115,060</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院患者数	77,890	75,580	75,305	75,736	65,681	66,476	75,693	外来患者数	104,666	105,765	110,185	111,574	105,773	121,675	115,060	B	令和3年度の入院患者数は、新型コロナウイルス感染症による影響が残っていることから、目標を下回ったが、外来患者数は目標及び令和2年度実績を上回った。県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努めている。																																																																																																																															
病床数	279床																																																																																																																																																																							
一般病床	243床																																																																																																																																																																							
精神病床	36床																																																																																																																																																																							
外来患者	115,060人																																																																																																																																																																							
入院患者	75,693人																																																																																																																																																																							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
入院患者数	77,890	75,580	75,305	75,736	65,681	66,476	75,693																																																																																																																																																																	
外来患者数	104,666	105,765	110,185	111,574	105,773	121,675	115,060																																																																																																																																																																	
	・小児重症心疾患患者に対してハイブリッド手術室等の先進設備を活用し、常時高度な先進的治療を提供する。小児心疾患治療の先導的施設として専門医等の育成に努める。	○小児重症心疾患患者に対し、常時高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ常時対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)、新生児集中治療室(NICU)及び循環器集中治療室(CCU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化 ③小児用補助人工心臓装置の活用 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ⑤血管造影装置の2台化による循環器治療の提供体制の充実	51	①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児科(NICU)・小児集中治療科(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③補助人工心臓装置の活用を図る。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤カテーテル室の2室化工事の実施。	こども	平成28年に循環器病棟に設置した準重症患者対応病室は、順調に運用されている。今後も効果的な運用を継続していく。 心臓カテーテル治療実績 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>実施件数</td><td>170</td><td>200</td><td>179</td><td>206</td><td>192</td><td>204</td><td>200以上</td></tr></table> ハイブリッド手術実績 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>12</td><td>6</td><td>8</td><td>5</td><td>8</td><td>6</td><td></td></tr></table> CCU稼働率 (単位: 人、%) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>3,297</td><td>2,939</td><td>3,063</td><td>3,176</td><td>3,021</td><td>3,011</td><td></td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>87.4</td><td>80.5</td><td>83.9</td><td>85.8</td><td>82.8</td><td>71.7</td><td></td></tr></table> 循環器センターにおける研修医の人数 (単位: 人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>人数</td><td>7</td><td>6</td><td>5</td><td>9</td><td>7</td><td>9</td><td></td></tr></table> 小児用補助人工心臓装置の使用状況 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	実施件数	170	200	179	206	192	204	200以上	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	件数	12	6	8	5	8	6		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院延患者数	3,297	2,939	3,063	3,176	3,021	3,011		病床稼働率	87.4	80.5	83.9	85.8	82.8	71.7		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	人数	7	6	5	9	7	9		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	件数	1	1	1	0	0	0		A	循環器科、心臓血管外科、集中治療科の連携による小児循環器センターの体制の維持・充実により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れている。 また、研修医も着実に受け入れており、小児心疾患治療の先進的施設として、高度な循環器疾患医療の専門医の育成にも努めた。 令和3年度は、ハイブリッド手術室における心臓カテーテル治療は目標件数を上回るとともに、心エコー画像の遠隔診断についても実績が上がってきている。 例年カテーテル治療件数が高い水準で推移しているため、高機能なアンギオ装置を更新し、より質の高い診療を行う。 なお、令和3年度は、質の高い診療や診療報酬の増収を目指し、PICUとCCUを統合した。																																																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
実施件数	170	200	179	206	192	204	200以上																																																																																																																																																																	
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
件数	12	6	8	5	8	6																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
入院延患者数	3,297	2,939	3,063	3,176	3,021	3,011																																																																																																																																																																		
病床稼働率	87.4	80.5	83.9	85.8	82.8	71.7																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
人数	7	6	5	9	7	9																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
件数	1	1	1	0	0	0																																																																																																																																																																		
	・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるほか、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。	○地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ②新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施	52	①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じNICU内での手術を継続実施する。	こども	産科入院患者数 (単位: 人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>6,207</td><td>5,205</td><td>5,250</td><td>5,101</td><td>4,401</td><td>4,810</td><td></td></tr><tr><td>周産期医療に係る地域医療機関向け母胎胎児等関係業務 (単位: 回、人、%)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>研修会等回数</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>9</td><td>8</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>参加者数</td><td>637</td><td>439</td><td>373</td><td>377</td><td>255</td><td>155</td><td></td></tr></table> NICU診療実績 (単位: 人、%) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>6,411</td><td>6,311</td><td>5,319</td><td>5,250</td><td>5,029</td><td>5,044</td><td></td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>97.6</td><td>96.1</td><td>84.0</td><td>79.7</td><td>76.5</td><td>77.5</td><td></td></tr></table> NICU診療実績 (単位: 人、%) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>4,855</td><td>4,536</td><td>4,646</td><td>4,723</td><td>4,685</td><td>4,978</td><td></td></tr><tr><td>NICU診療実績</td><td>73.9</td><td>69</td><td>70.7</td><td>71.7</td><td>71.3</td><td>71.3</td><td></td></tr></table> NICU診療実績 (単位: 人、%) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>2,007</td><td>2,068</td><td>1,979</td><td>1,992</td><td>1,517</td><td>1,433</td><td></td></tr><tr><td>NICU診療実績</td><td>97.6</td><td>91.4</td><td>85</td><td>86.8</td><td>89.3</td><td>86.3</td><td></td></tr></table> 新生児出生体重別入院患者数実績 (単位: 人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>1,500未満</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td>1,500~1,000</td><td>36</td><td>28</td><td>29</td><td>41</td><td>19</td><td>22</td><td></td></tr><tr><td>1,000~1,500</td><td>22</td><td>28</td><td>26</td><td>25</td><td>28</td><td>15</td><td></td></tr><tr><td>1,500以上</td><td>144</td><td>143</td><td>155</td><td>139</td><td>156</td><td>204</td><td></td></tr><tr><td>合計</td><td>209</td><td>202</td><td>214</td><td>215</td><td>192</td><td>201</td><td></td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院患者数	6,207	5,205	5,250	5,101	4,401	4,810		周産期医療に係る地域医療機関向け母胎胎児等関係業務 (単位: 回、人、%)								研修会等回数	10	9	8	9	8	2		参加者数	637	439	373	377	255	155		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院患者数	6,411	6,311	5,319	5,250	5,029	5,044		病床稼働率	97.6	96.1	84.0	79.7	76.5	77.5		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院患者数	4,855	4,536	4,646	4,723	4,685	4,978		NICU診療実績	73.9	69	70.7	71.7	71.3	71.3		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院患者数	2,007	2,068	1,979	1,992	1,517	1,433		NICU診療実績	97.6	91.4	85	86.8	89.3	86.3		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	1,500未満	3	1	0	0	0	0		1,500~1,000	36	28	29	41	19	22		1,000~1,500	22	28	26	25	28	15		1,500以上	144	143	155	139	156	204		合計	209	202	214	215	192	201		A	最新式の超音波診断装置など最先端の機器整備を整備し、先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置等を適切に行っている。 こども病院は、他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れており、静岡県中部の周産期医療の拠点として、重症新生児(超早産児、重症新生児仮死、外科手術を要する先天性疾患等)は、ほぼ全てこども病院で治療している。 また例年、地域医療機関を対象とした研修会、検討会を定期的に開催し、地域の周産期医療のレベルアップを図ってきたが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会等の開催回数は減少した。 NICUの入院患者数は一定の水準にあり、り、前年と比べて稼働率は上がった。令和と平均値と比較すると稼働率が減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響として、これまで特定入院料の算定期間を超えてNICUで治療していた長期入院患者を転送させることで、病床稼働の効率化を図ったためである。
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
入院患者数	6,207	5,205	5,250	5,101	4,401	4,810																																																																																																																																																																		
周産期医療に係る地域医療機関向け母胎胎児等関係業務 (単位: 回、人、%)																																																																																																																																																																								
研修会等回数	10	9	8	9	8	2																																																																																																																																																																		
参加者数	637	439	373	377	255	155																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
入院患者数	6,411	6,311	5,319	5,250	5,029	5,044																																																																																																																																																																		
病床稼働率	97.6	96.1	84.0	79.7	76.5	77.5																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
入院患者数	4,855	4,536	4,646	4,723	4,685	4,978																																																																																																																																																																		
NICU診療実績	73.9	69	70.7	71.7	71.3	71.3																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
入院患者数	2,007	2,068	1,979	1,992	1,517	1,433																																																																																																																																																																		
NICU診療実績	97.6	91.4	85	86.8	89.3	86.3																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
1,500未満	3	1	0	0	0	0																																																																																																																																																																		
1,500~1,000	36	28	29	41	19	22																																																																																																																																																																		
1,000~1,500	22	28	26	25	28	15																																																																																																																																																																		
1,500以上	144	143	155	139	156	204																																																																																																																																																																		
合計	209	202	214	215	192	201																																																																																																																																																																		
	・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	○小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受け入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等の開催 ⑥病室のグリーン度アップや、AYA対応室の設置等北5病棟の改修	53	①静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ①②小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、小児がん診療の更なる充実を図る。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ④AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等を開催する。 ⑥北5病棟改修工事の実施。	こども	血液腫瘍科延患者数実績 (単位: 人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>入院</td><td>5,301</td><td>7,577</td><td>5,656</td><td>7,549</td><td>7,335</td><td>4,810</td><td></td></tr><tr><td>外来</td><td>3,691</td><td>3,711</td><td>3,691</td><td>3,713</td><td>3,298</td><td>3,663</td><td></td></tr></table> 血液腫瘍科診療実績 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>臍帯血移植</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>11</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>7</td><td></td></tr></table> 小児がん登録件数 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>登録件数</td><td>61</td><td>58</td><td>47</td><td>59</td><td>53</td><td>45</td><td></td></tr></table> がんセンター間の共同カンファレンス (単位: 回) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>回数</td><td>31</td><td>21</td><td>33</td><td>31</td><td>31</td><td>31</td><td></td></tr></table> AYA世代がん診療関係集開回 (単位: 回) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr><tr><td>回数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td></td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院	5,301	7,577	5,656	7,549	7,335	4,810		外来	3,691	3,711	3,691	3,713	3,298	3,663		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	骨髄移植	4	2	5	2	8	3		臍帯血移植	2	2	2	2	2	2		自家末梢血	2	2	4	4	2	2		同種末梢血	0	0	2	1	1	0		計	11	10	14	13	13	7		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	登録件数	61	58	47	59	53	45		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	回数	31	21	33	31	31	31		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	回数	1	1	1	1	1	1		S	小児がんは成人と比較して発症数の少なから発見、診療が専門機関でない困難であり、こども病院は、小児がん拠点病院(平成31年4月指定)として、小児がん相談室の設置、院内がん登録中核認定者の専任化等により体制整備に努めている。令和3年度は、更なる体制整備の一環として、設備面で、個室4室、廊下も含めた範囲のグリーン度アップなど機能強化及び入院患者の学習継続や交流のための施設整備を行い、7月に工事が完了している。 また、がん公開講座については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施出来ていなかったが、令和3年度は再開した。また、AYA世代のがんに携わる医療従事者に向けた研修会についても継続的に開催した。 がんゲノム医療連携病院(令和元年12月指定)として、がんゲノム医療についても取組を実施しており、加えて、がんセンターとの共同カンファレンスの開催など他の小児がん連携病院等とも連携し、地域全体の小児・AYA世代のがん医療及び支援の質の向上に努めている。 なお、小児がん登録件数も、目標値を超えた。																																								
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
入院	5,301	7,577	5,656	7,549	7,335	4,810																																																																																																																																																																		
外来	3,691	3,711	3,691	3,713	3,298	3,663																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
骨髄移植	4	2	5	2	8	3																																																																																																																																																																		
臍帯血移植	2	2	2	2	2	2																																																																																																																																																																		
自家末梢血	2	2	4	4	2	2																																																																																																																																																																		
同種末梢血	0	0	2	1	1	0																																																																																																																																																																		
計	11	10	14	13	13	7																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
登録件数	61	58	47	59	53	45																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
回数	31	21	33	31	31	31																																																																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																	
回数	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価	
						説明	
					公明党議員人数 (単位: 人) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 佐賀県 1 1 1 1 1 1 県議会議員人数 (単位: 人) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 佐賀県 1 1 1 1 1 1 研修会(脳腫瘍関係) (単位: 回) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 開催回数 1 1 1 1 1 1 参加人数 1 1 1 1 1 1		
			54	①PICU(小児集中治療センター)・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ①小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ③院内の小児救急専門スタッフ(医師、看護師)育成に努める。	小児救急センターの患者数 (単位: 人、%) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 入院患者数 1,402 1,392 1,525 1,412 1,283 1,349 外来患者数 1,332 1,252 1,332 1,222 1,224 1,201 合計 2,734 2,644 2,857 2,634 2,507 2,550 PICU診療実績 (単位: 人、%) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 入院患者数 1,332 1,252 1,332 1,222 1,224 1,201 外来患者数 1,332 1,252 1,332 1,222 1,224 1,201 合計 2,664 2,504 2,664 2,444 2,448 2,402 PICU診療実績 (単位: 人、%) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 入院患者数 1,332 1,252 1,332 1,222 1,224 1,201 外来患者数 1,332 1,252 1,332 1,222 1,224 1,201 合計 2,664 2,504 2,664 2,444 2,448 2,402 ドクター・ナース出勤実績 (単位: 回) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 出勤回数 264 264 274 294 292 292 PICU医師・看護師 (単位: 人) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 医師 11 11 12 12 12 10 看護師 11 11 12 12 12 10 合計 22 22 24 24 24 20	小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れた。 令和2年度は救急患者が減少したが、令和3年度はICUの統合(PICUとCCUの統合)により患者数が増加した。 ER開設以降、富士富士宮、志太線原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補完している。 PICU病棟の医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。	A
			55	②地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主権により、救急医療・救急(消防)業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。	救急関係研修会等開催実績 (3月末時点、人) 区 分 対象 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 小児救命救急研究会 小児救命、救急医療関係者 150 135 161 86 0 0 救急救命士再教育病院実習 救急救命士 6 10 6 0 0 0	例年、救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図っているものの、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。 重篤な小児患者の受入れ等救急体制については、継続的に体制の整備を図っていく。	-
			56	①児童精神科医療について、総合病院、こころの医療センターなどと連携し、体制の充実を図る。	こころの診療科診療実績 (単位: 人) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 入院延患者数 10,086 10,864 10,011 9,445 7,890 10,353 入院新患者数 54 58 57 50 63 71 外来延患者数 12,311 12,607 12,376 11,604 11,416 13,211 外来初診患者数 477 502 466 514 579 617 こころの診療科地域別来患者数実績 (単位: 人) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 東部 755 766 779 759 744 829 中部 1,077 1,157 1,190 1,227 1,329 1,423 西部 54 59 56 59 56 53 県外 10 15 10 14 13 13 合計 1,896 1,997 2,035 2,059 2,142 2,318	県内の児童精神科医療の中核機関として、中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れている。	A
			57	②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県内の拠点病院として参加する。	事業を行っている全国19都府県1政令指定都市にある29の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。 (拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、千葉県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県、札幌市 精神保健講座等開催実績 (単位: 人) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 精神保健 児童医療 精神保健 児童医療 精神保健 児童医療 精神保健 児童医療 精神保健 児童医療 精神保健 児童医療 講座 施設巡回 講座 施設巡回 講座 施設巡回 講座 施設巡回 講座 施設巡回 対象 県内小中 小児 県内小中 小児 県内小中 小児 県内小中 小児 県内小中 小児 県内小中 小児 参加者数等 5回 10回 5回 11回 5回 10回 5回 11回 2回 11回 4回 10回 135人 10施設 156人 11施設 159人 10施設 96人 11施設 49人 11施設 140人 10施設	急増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化を図り、県内の小児精神保健ネットワークの中核的な役割を果たしている。 令和元年度末及び令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により精神保健講座の参加者数等は減少したが、令和3年度は平成30年度並に実施した。	A
			58	③児童精神科医の育成に努める。	有期職員医師を1名採用し(平成25年度から延べ9名)、専門的な児童精神科医を育成している。 有期職員医師採用実績 (単位: 人) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 採用人数 1 1 1 1 1 1	児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行った。	A

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3)		令和3年度実績 自己評価	
											説明	
優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、ワーク・ライフ・バランスの向上の推進や職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医師をはじめとした医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。		医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。		①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院院内保育所の活用		72	①柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。		看護師の2交代制勤務については、総合病院18部署、こころの医療センター3部署、こども病院10部署となっている。看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。		A	看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っている。 看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めている。 平成29年4月以降、診療費との導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となっている。
							②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。		アソシエイト採用実績（各年度4月1日現在）（単位：人）			
									継続職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人）			
						73	②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。		医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合病院では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置しており、令和3年度においても、診療報酬の施設基準上、最上位基準を維持している。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。			
						74	③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。		県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与（勤動手当）への活用を開始しており、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に実施している。		A	平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与（勤動手当）への活用を開始しており、令和3年度についても、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に実施した。
						75	④就労環境の改善に向けた院内施設、子育て支援や相談など福利厚生者の充実を進める。		総合病院では、敷地内保険調剤薬局等整備事業において、令和3年9月にカフェ棟が開業し、令和4年3月に薬局・レストラン棟が完成した。 院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を実施した。 こころの医療センターでは、研修医の受入のための医局の整備を実施し、就労環境を改善した。 こども病院院内保育所の建替工事については、平成31年3月に竣工し平成31年4月より運用開始した。 また、ランドリーを移転し、令和2年3月にコンビニエンスストアを導入した。		A	総合病院では、敷地内保険調剤薬局等整備事業において、令和3年9月にカフェ棟が開業し、令和4年3月に薬局・レストラン棟が完成した。 こころの医療センターでは、研究室(令和4年度より稼働)をはじめ研修医の受入のための医局の整備を実施し、就労環境を改善した。 こども病院では、ペーパーレス化と業務効率の向上を目的に、タブレット端末(ipad)を導入した。 各病院では、医師、看護師等の新型コロナウイルス感染症及び医療事故への対応、その他こころの悩みに対し精神科医師によるケアを充実させ、安心して働くことのできる職場環境改善に努めている。 看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常の生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長年に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。 引き続き、院内施設の充実を図り、就労環境の向上に取り組んでいる。
						76	⑤院内保育の活用を図る。		保育所利用者数（単位：人）		A	各病院の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。 総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務所の入所を開始した。また、令和3年11月、12月には院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種を実施。 こども病院では、令和元年度から新保育所の運用を開始しており、二重保育や病後児保育など新たな保育サービスに対応している。令和3年度は45人を上限に稼働し、令和4年度以降、段階的に増員する予定である。 現状、定員に対し利用者数に開きがあるが、産育休復帰職員の利用の増加による稼働率の向上を目指し、広報誌の発行や、看護部を通して産育休取得者への働きかけ等を行った。
3	医療に関する調査及び研究	3	医療に関する調査及び研究	3	医療に関する調査及び研究	—	—	—	—	—	—	—
医療や県民の健康寿命延伸に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上、県民の健康寿命の延伸に寄与すること。		県内医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の活用・充実強化に努める。		県内の医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。		—	—	—	—	—	—	—

中期目標				中期計画				年度計画				No				行動計画				業務の実績(令3)				令和3年度実績 自己評価							
(1) 研究機能の強化				(1) 研究機能の強化				(1) 研究機能の強化				—				—				—				—							
各病院が臨床研究に取り組み、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保に努めること。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究など県が推進する社会健康医学研究に協力すること。さらに、産学官との連携による共同研究や治験に取り組むこと。				県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、各病院が臨床研究に取り組み、その成果を発信することなどにより、県内医療水準の向上と医療人材の確保に努める。また、県が定めた社会健康医学研究推進計画に基づき、社会健康医学の研究推進事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備を行い、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。				①県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②静岡社会健康医学大学院大学と連携した社会健康医学研究の充実・推進 ③聴覚障害児における言語獲得の研究支援の実施と早期治療体制の構築 ④県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ⑤治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ⑥県立大学等の研究機関との共同研究				①臨床研究や疫学研究の充実・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ②③④研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体系的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ③聴覚障害児における言語獲得の研究支援について、外部機関との連携を推進する。 ④研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体系的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ⑤研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ⑥研究支援室による臨床研究の支援を行う。 ⑦県立大学との共同研究を行う。				—				—				—				—			
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—				—				—				—				—				—											
—																															

令和3年度実績 自己評価																																																																									
説明																																																																									
A	岡市内の救急医療を支援するため、総合病院から桜ヶ丘病院に対して医師派遣を行った。 (総合) 医療機関等に対しては、桜ヶ丘病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所の計6箇所に医師派遣を行った。 (こども) 県内の8医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援している。公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。	岡市内の救急医療を支援するため、総合病院から桜ヶ丘病院に対して医師派遣を行った。 (総合) 医療機関等に対しては、桜ヶ丘病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所の計6箇所に医師派遣を行った。 (こども) 県内の8医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援している。公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。																																																																							
		静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。 医師派遣実績（急病センター）（単位：機関、科、人） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>医療機関</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>295</td><td>294</td><td>218</td><td>214</td><td>197</td><td>165</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	295	294	218	214	197	165	静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。 医師派遣実績（急病センター）（単位：機関、科、人） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>医療機関</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>295</td><td>294</td><td>218</td><td>214</td><td>197</td><td>165</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	295	294	218	214	197	165														
		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																	
		医療機関	2	2	2	2	2	2																																																																	
診療科	2	2	2	2	2	2																																																																			
延人員数	295	294	218	214	197	165																																																																			
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
医療機関	2	2	2	2	2	2																																																																			
診療科	2	2	2	2	2	2																																																																			
延人員数	295	294	218	214	197	165																																																																			
『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。	『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。																																																																								
配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当）（単位：名） <table><tr><th>配置開始年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>配置調整医師数</td><td>34</td><td>64</td><td>64</td><td>76</td><td>108</td><td>123</td></tr><tr><td>うち県内勤務開始数</td><td>22</td><td>41</td><td>39</td><td>47</td><td>71</td><td>83</td></tr></table> ※配置調整は各前年度となる。	配置開始年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	配置調整医師数	34	64	64	76	108	123	うち県内勤務開始数	22	41	39	47	71	83	配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当）（単位：名） <table><tr><th>配置開始年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>配置調整医師数</td><td>34</td><td>64</td><td>64</td><td>76</td><td>108</td><td>123</td></tr><tr><td>うち県内勤務開始数</td><td>22</td><td>41</td><td>39</td><td>47</td><td>71</td><td>83</td></tr></table> ※配置調整は各前年度となる。	配置開始年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	配置調整医師数	34	64	64	76	108	123	うち県内勤務開始数	22	41	39	47	71	83																														
配置開始年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
配置調整医師数	34	64	64	76	108	123																																																																			
うち県内勤務開始数	22	41	39	47	71	83																																																																			
配置開始年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
配置調整医師数	34	64	64	76	108	123																																																																			
うち県内勤務開始数	22	41	39	47	71	83																																																																			
A	（総合） 19領域中10領域の専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 (こども) 令和3年度は、4人の専攻医を受け入れ、病院見学では22人を受け入れるなど、専攻医の確保に努めた。 また、ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化することを理事会で方針として採択し、先進事例の共有の取組を推進している。	（総合） 令和3年4月、21名が専門研修プログラムに所属し、研修を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 (こども) 令和3年度は、4人の専攻医を受け入れ、病院見学では22人を受け入れるなど、専攻医の確保に努めている。 平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施している。	（総合） 令和3年4月、21名が専門研修プログラムに所属し、研修を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 (こども) 令和3年度は、4人の専攻医を受け入れ、病院見学では22人を受け入れるなど、専攻医の確保に努めた。 また、ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化することを理事会で方針として採択し、先進事例の共有の取組を推進している。																																																																						
		地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進められており、共同利用件数も令和2年度を底に持ち直している。 C.T.MRI共同利用（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>CT</td><td>319</td><td>347</td><td>386</td><td>391</td><td>459</td><td>729</td></tr><tr><td>MRI</td><td>491</td><td>543</td><td>596</td><td>595</td><td>472</td><td>517</td></tr><tr><td>CT(MRI併用)</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>MRI(MRI併用)</td><td>129</td><td>131</td><td>24</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	CT	319	347	386	391	459	729	MRI	491	543	596	595	472	517	CT(MRI併用)	6	2	1	0	0	0	MRI(MRI併用)	129	131	24	0	0	0	地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進められており、共同利用件数も令和2年度を底に持ち直している。 C.T.MRI共同利用（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>CT</td><td>319</td><td>347</td><td>386</td><td>391</td><td>459</td><td>729</td></tr><tr><td>MRI</td><td>491</td><td>543</td><td>596</td><td>595</td><td>472</td><td>517</td></tr><tr><td>CT(MRI併用)</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>MRI(MRI併用)</td><td>129</td><td>131</td><td>24</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	CT	319	347	386	391	459	729	MRI	491	543	596	595	472	517	CT(MRI併用)	6	2	1	0	0	0	MRI(MRI併用)	129	131	24	0	0	0
		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																	
		CT	319	347	386	391	459	729																																																																	
MRI	491	543	596	595	472	517																																																																			
CT(MRI併用)	6	2	1	0	0	0																																																																			
MRI(MRI併用)	129	131	24	0	0	0																																																																			
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
CT	319	347	386	391	459	729																																																																			
MRI	491	543	596	595	472	517																																																																			
CT(MRI併用)	6	2	1	0	0	0																																																																			
MRI(MRI併用)	129	131	24	0	0	0																																																																			
地域医療連携推進事業費補助金を活用し、ふじのくににおいて参加施設の新規システム構築及び機器更新を実施している。 また、令和2年3月からは、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進め、令和3年度についても、ふじのくににおいて参加施設の利用性向上に貢献した。	地域医療連携推進事業費補助金を活用し、ふじのくににおいて参加施設の新規システム構築及び機器更新を実施している。 また、令和2年3月からは、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進め、令和3年度についても、ふじのくににおいて参加施設の利用性向上に貢献した。																																																																								
小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター（LNU）との継続試験を兼ねた症例検討会を定期的に実施している。他医療機関（4施設）と連携し、例年心エコー画像遠隔診断を実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により症例数が減少し、実施できていなかったが、令和3年度は再開した。 心エコー画像遠隔診断実績（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>依頼数</td><td>5</td><td>7</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	依頼数	5	7	5	3	0	2	小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター（LNU）との継続試験を兼ねた症例検討会を定期的に実施している。他医療機関（4施設）と連携し、例年心エコー画像遠隔診断を実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により症例数が減少し、実施できていなかったが、令和3年度は再開した。 心エコー画像遠隔診断実績（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>依頼数</td><td>5</td><td>7</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	依頼数	5	7	5	3	0	2																																												
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
依頼数	5	7	5	3	0	2																																																																			
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
依頼数	5	7	5	3	0	2																																																																			
B	がん診療部主催の拡大がんサードボード（多職種カンファレンス）では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外での多職種による包括的な議論が行われている。 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症を考慮し、開催回数及び参加人数を制限して開催した。	拡大がんサードボード実績 <table><tr><th>区分</th><th>29年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>4回</td><td>6回</td><td>6回</td><td>5回</td><td>3回</td><td>2回</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>160</td><td>153</td><td>194</td><td>178</td><td>73</td><td>79</td></tr><tr><td></td><td>172</td><td>126</td><td>162</td><td>108</td><td>49</td><td>36</td></tr><tr><td>合計</td><td>332</td><td>283</td><td>356</td><td>286</td><td>122</td><td>115</td></tr></table>	区分	29年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	4回	6回	6回	5回	3回	2回	参加人数	160	153	194	178	73	79		172	126	162	108	49	36	合計	332	283	356	286	122	115	拡大がんサードボード実績 <table><tr><th>区分</th><th>29年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>4回</td><td>6回</td><td>6回</td><td>5回</td><td>3回</td><td>2回</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>160</td><td>153</td><td>194</td><td>178</td><td>73</td><td>79</td></tr><tr><td></td><td>172</td><td>126</td><td>162</td><td>108</td><td>49</td><td>36</td></tr><tr><td>合計</td><td>332</td><td>283</td><td>356</td><td>286</td><td>122</td><td>115</td></tr></table>	区分	29年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	4回	6回	6回	5回	3回	2回	参加人数	160	153	194	178	73	79		172	126	162	108	49	36	合計	332	283	356	286	122	115
		区分	29年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																	
		回数	4回	6回	6回	5回	3回	2回																																																																	
		参加人数	160	153	194	178	73	79																																																																	
	172	126	162	108	49	36																																																																			
合計	332	283	356	286	122	115																																																																			
区分	29年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
回数	4回	6回	6回	5回	3回	2回																																																																			
参加人数	160	153	194	178	73	79																																																																			
	172	126	162	108	49	36																																																																			
合計	332	283	356	286	122	115																																																																			

49

公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。

定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。

①定期的な公開講座、医療相談会等の開催
②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供
③報道機関等への情報発信

①県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。

各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。

公開講座	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	(単位：件、人)
総合	県民向け	—	10	6	9	3	5	10
	参加者	495	712	524	349	125	104	—
医療機関向け	実施件数	29	27	21	27	10	9	—
	参加者	1,765	1,691	1,193	1,441	371	379	—
こころ	県民向け	2	2	2	2	0	0	—
	参加者	6	8	28	21	0	0	—
医療機関向け	実施件数	3	5	3	8	3	0	—
	参加者	81	485	88	115	20	0	—
子ども	県民向け	2	3	3	6	1	3	—
	参加者	116	149	195	188	20	127	—
医療機関向け	実施件数	400	759	698	—	—	—	—

きこえとことばのセンター主催研修会等の開催件数 (単位：件)

区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
件数	—	7	8	5	32	33

【目標値】
・公開講座件数(総合、こころ、こども)

【目標値】
・公開講座件数(総合、こころ、こども)

①「総/子」・県民向けイベントの開催や参加に努める。

(総合)
令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンホスピタルを開催中止とした。
オープンホスピタル来場者数 (単位：人)

区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
来場者数	1,200	1,400	1,200	1,200	—	—

(こども)
例年、(株)静岡新聞は、静岡放送(株)が主催のこどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセに参加し、健康相談及びびども用の医師・ナース服の着用体験のブースを出展しているが、令和2・3年度はコロナ禍の状況を鑑み不参加となった。

こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位：人)

区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
健康相談	17	22	10	3	0	0
写真撮影	1,288	957	1,064	792	0	0

※例年2日間開催されるが、令和元年度は台風の影響により、1日のみの開催

機構全体のトピックスやプレスリリース、各病院の感染症対策情報等を迅速に更新し、積極的に情報発信を行った。

②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。

各病院(企業)別77カ所患者数 (単位：人)

区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
太郎	214,415	218,453	229,234	232,473	236,234	234,744
総合	1,884,793	2,017,729	2,022,345	2,002,755	2,731,715	2,542,438
ふくろ	269,084	275,295	378,258	682,762	659,939	674,384
ふれあ	1,452,729	1,61,263	1,690,943	1,772,069	1,800,380	1,810,953
合計	3,801,002	4,062,725	4,141,068	5,570,239	5,458,268	5,262,519

最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。平成28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。

③県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。

各病院(企業)別患者退院提供件数 (単位：件)

区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
提供件数	48	47	43	36	19	29
掲載件数	31	36	30	24	13	20

※提供件数1件に対し、掲載件数が複数あった場合も掲載件数1件とカウントする

5 災害等における医療救護

県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。

5 災害等における医療救護

地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県内の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時には静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。

5 災害等における医療救護

県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。

(1) 医療救護活動の拠点機能

災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こころの医療センターは災害時における精神医療分野の、県立こども病院は災害時における小児医療分野の、それぞれにおける基幹的役割を果

(1) 医療救護活動の拠点機能

日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重傷患者の受入れ、県内外のDMAT(災害派遣精神医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立子ども医療センターにおける基幹的役割を果

(1) 医療救護活動の拠点機能

①災害拠点病院(小児分野を含む)等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う
②災害時における精神医療分野の拠点病院として、中心的な役割を担う
③小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築

①災害医療訓練を実施する。
①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。
①【心】：災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。
①【子】：災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。
②【心】：一時避難所機能等災害時における精神医療分野の拠点病院としての役割を担うための訓練を果

令和3年度実績 自己評価

説明
総合病院では、外部向け講座としてがん医療公開講座を開催している。また、きこえとことばのセンターでは難聴児の早期発見、早期介入を目的に、地域の医療従事者や行政担当者による研修会等を実施している。ただし、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響によりきこえとことばのセンターの公開講座を除いて実施件数は目標値を下回った。
また、聴覚者・人工内耳装着者の音声・言語認知の共同研究に関する協定の締結などの取組みについてプレスリリースを掲載し、情報発信した。
こころの医療センターでこのころの医療においては、院内での新型コロナウイルス感染症の感染予防を優先していることもあり、令和3年度についてはボランティア研修会の開催が中止となった。

オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努めてきたが、令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催を見送った。
開催を見送っていることで、適正な評価が困難であることから、未評価とする。
ただし、人数を制限した公開講座(N.96)等は、縮小して開催しており、県民への情報提供は継続している。
また、「病院だより」等、健康情報が記載されている冊子をホームページに掲載しており、健康に関する知識の充実に努めている。

総合病院では、診療内容やイベント開催等の基本的な情報を始め、感染症に関する突発的な情報等閲覧者に対して丁寧かつ迅速に伝えるため、ホームページを積極的に活用している。
こころの医療センターでは、新型コロナウイルス感染症防止のための当院の取組についてスピード感を持って情報提供を行った。また、7月に発生した熱海市土石流災害における当院のDPAT活動についてもホームページに掲載し、当院の業務活動の広報に努めた。

提供件数は高い水準を保っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント等中止するなど令和元以前と比較すると減少している。引き続き、継続して取り組みを強化していく。

令和3年度実績 自己評価

説明
情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、基幹災害拠点病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施している。引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3)		令和3年度実績 自己評価	
											説明	
3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	—	—	各病院 (医事)	—	A	(総合) DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、各診療科に対して上位5疾患をリストアップし、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニックバス見直し等の取組を行っている。 (こころ) 令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響で退院後の受入れが停滞していることもあり、前年度に続いて長期入院患者率が増加した。 (こども) DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んだ。	
3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	111	①平均在院日数の短縮に向けた取り組み ②医薬品、診療材料の適正かつ計画的な購入 ③診療報酬など収入の適正な確保 ④業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ⑤未収金対策の実施	各病院	—	A	(総合) 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化している。また、委員会において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めている。予定変更や手技によるものは放し方ないが、落下や誤開封について削減に努めている。 (こころ) 破棄・破損額の発生を抑えるため、3病院間での薬品の譲受譲渡を令和3年度は146品目について実施し、不動在庫の軽減に繋がった。 診療材料については、病棟の消毒薬在庫の適正化を図り、入出庫の少ないものは、極力在庫を置かず、必要時その都度発注することとして、期限切れによる廃棄の削減に努めている。 (こども) 各部署と金額等の情報共有を徹底し、在庫管理に努めている。委員会などで破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理を周知している。	
3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	112	②診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。	各病院	—	A	施設基準の新規及びランクアップの届出を積極的に行い、診療単価が向上した。 研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。	
3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	113	③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。	各病院	(総合) ICUにおいて、医師、看護師、理学療法士等の多職種による総合的な早期離床に係る取組を開始し、特定集中治療室管理料早期離床・リハビリテーション加算の届出を行った。 精神科リエンサンチーム加算について、常勤の公認心理師を採用し専従者として届け出たため、算定可能患者数が15人から30人に増加した。 (こども) 精神科医師と運用を調整し、精神疾患診療体制加算の新規届出を行った 急性期看護病棟の体制加算100名急性期看護病棟加算及び夜間看護体制加算の施設基準を取得に向けて、夜間看護病棟の者を確保するため人材派遣業者の公募を行っている。次年度6月には届出予定である。 県内初の内視鏡手術用支援機器を用いた腹腔鏡下腫瘍切除術の施設基準を3月に届け出した。 (こども) 作業療法士の採用に伴い、脳血管疾患等リハビリテーション科(Ⅱ)を(Ⅰ)へランクアップさせた。 患者相談窓口の設置及び職員の配置が可能となったため、患者サポート体制充実加算の新規届出を行った。 ICUの病棟再編に伴い、CCU病棟の届出入院料を、特定集中治療室管理料3から小児入院医療管理料1へ変更した。 持続血糖測定器に係る適切な研修を修了し要件を満たしたため、持続血糖測定器加算(間歇注入シリッジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)の新規届出を行った。 各種職種との連携を図り、適正な収入確保を念頭に施設基準取得に努めた。	A		
3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	114	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫減少に努める。	総合	薬品、診療材料期限切れ廃棄額 (単位：千円) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 薬品 2,127 2,832 2,931 2,279 2,531 2,538 診療材料 1,612 673 969 973 697 1,631 薬品・診療材料在庫額 (単位：千円) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 薬品 101,006 102,777 92,244 136,694 153,688 160,916 診療材料 191,861 216,079 224,292 221,513 227,708 229,545	A	薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、多くのロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。しかしながら、稀な症例に使用する物品(ただし緊急時になければ困るもの)が期限切れになっており、今後も管理方法について検討を行っている。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫減少に努めている。 診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案を行う等、在庫の削減に努めている。 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、マスクや手袋等、供給体制が不安定な物品について、在庫量を増やすなど診療に支障がないよう取り組んでいる。	
3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	3	収益の確保と費用の節減	—	④材料費等の節減のための対策を実施する。	各病	診療材料コスト削減実績 (単位：千円) 区 分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 実績 実績 実績 実績 実績 実績 総 合 34,307 27,923 85,869 82,971 71,680 132,620 こころ 107 446 95 13 3 105 こども 8,320 6,182 15,458 16,734 12,229 22,956 合 計 42,734 34,551 101,422 99,718 83,912 155,681 3年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品、品目数の実績 (単位：件) 区 分 診療材料品目数 薬品品目数 3年度当初 新規採用数 廃止数 契約数 3年度当初 新規採用数 廃止数 契約数		(総合) 診療材料については年度当初の単価契約と比較し、価格交渉により約5,668万円削減した。また共同購入の取り組みによる還元額は、過去最高の約7,594万円還元となった。品目数については、物品の集約と使用状況の調査を行ったことで、採用数より廃止数が上回る結果となった。 (こころ) 後発品の採用率は前年度と比較して上昇した。また、診療材料については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあって上昇していたメーカーの販売単価が下降傾向に入り、中には大きく価格が減少したものがあった。さらに、入院患者の持参薬の臨時採用の見直しなどを進めたこともあり、コスト削減を図ることができた。 (こども) 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先薬品との同等性を十分に確認することが必要であるため、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価																																														
							説明																																													
			115	院（企画）	<table><tr><th></th><th>契約数(a)</th><th>(b)</th><th>(c)</th><th>(a+b-c)</th><th>契約数(a)</th><th>(b)</th><th>(c)</th><th>(a+b-c)</th></tr><tr><td>総合</td><td>17,570</td><td>1,495</td><td>2,040</td><td>17,025</td><td>1,647</td><td>45</td><td>47</td><td>1,645</td></tr><tr><td>こころ</td><td>397</td><td>24</td><td>13</td><td>408</td><td>607</td><td>73</td><td>86</td><td>594</td></tr><tr><td>こども</td><td>4,212</td><td>352</td><td>179</td><td>4,385</td><td>1,337</td><td>58</td><td>66</td><td>1,329</td></tr><tr><td>合 計</td><td>22,179</td><td>1,871</td><td>2,232</td><td>21,818</td><td>3,591</td><td>176</td><td>199</td><td>3,568</td></tr></table>		契約数(a)	(b)	(c)	(a+b-c)	契約数(a)	(b)	(c)	(a+b-c)	総合	17,570	1,495	2,040	17,025	1,647	45	47	1,645	こころ	397	24	13	408	607	73	86	594	こども	4,212	352	179	4,385	1,337	58	66	1,329	合 計	22,179	1,871	2,232	21,818	3,591	176	199	3,568	A	院の採用状況を参考にしながら切替え候補品目を選定した。 また、診療材料は、令和元年から引き続き共同購入の取組を継続しており、一層の価格削減を進めた。
					契約数(a)	(b)	(c)	(a+b-c)	契約数(a)	(b)	(c)	(a+b-c)																																								
			総合		17,570	1,495	2,040	17,025	1,647	45	47	1,645																																								
こころ	397	24	13	408	607	73	86	594																																												
こども	4,212	352	179	4,385	1,337	58	66	1,329																																												
合 計	22,179	1,871	2,232	21,818	3,591	176	199	3,568																																												
116	各病院（企画）	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。 <																																																		

用語 (50音順)	解 説
A C T	A C Tとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
C C U	C C Uとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、C C UをCardiac (心臓病の) I C Uと位置付けている。
D M A T	D M A Tとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持ち、専門的な訓練を受けた医療チーム(D M A T:ディーマット)
D P A T	D P A Tとは、disaster psychiatric assistance teamの略で、大規模災害発生後、被災地域に入り、精神科医療及び精神保健活動の支援を行う災害派遣精神医療チーム(D P A T:ディーパット)
D P C	D P Cとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
E S C O	E S C Oとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
H C U	H C Uとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
I C U	I C Uとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
I M R T	I M R Tとは、Intensity Modulated Radiation Therapyの略で、強度変調放射線治療を言い、コンピュータの助けを借りて正常組織への照射線量を抑えつつ、腫瘍部分に放射線を集中して照射することができる放射線治療である。
m-E C T	m-E C Tとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
M F I C U	M F I C Uとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
M i t r a C l i p	M i t r a C l i p (マイトラクリップ)とは、手術リスクの高い僧帽弁閉鎖不全症患者に対して行う経カテーテル僧帽弁クリップ術である。 2003年にヨーロッパで始まり、欧米を中心に6万人以上の治療実績を有する。日本では2017年10月に認可があり、全国12施設で約300症例に対して治療が行われている。
M S W	M S Wとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
N I C U	N I C Uとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要がある、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。

用語（50音順）	解 説
P C I	血管に刺入する管（カテーテルという）を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して（経皮的）冠動脈インターベンション（PCI）と呼ぶ。 風船療法（カテーテルの先端の風船（バルーン）で狭窄した冠動脈を拡げる）や経皮的冠動脈ステント留置術（拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ）やD C A（カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法）やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。
P E T	P E Tとは、Positron Emission Tomography（ポジトロン・エミッション・トモグラフィ）の略で、PET検査とは、陽電子（ポジトロン）を放出する放射性核種（ポジトロン核種）で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V I（タビ）とは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁置換術」と言い、重症の大動脈弁狭窄症に対する手術療法である。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療秘書（医師事務作業補助者）	クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。 医師の指示の下、診断書の文章作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）並びに行政上の業務（救急医療情報システムへの入力等）への対応を行う。
医療ビッグデータ	医療ビッグデータとは、人の健康、病気、治療等に関するビッグデータを言い、レセプトデータ、電子カルテ等に記録された診療データ、特定の疾患に関する臨床データ、薬局における調剤データ、健康診断データ等があげられる。
がんゲノム医療	がんゲノム医療とは、がんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べ（がん遺伝子パネル検査）、遺伝子変異を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療等を行う医療である。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。

用語（50音順）	解 説
がんセンターボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。
クリニカルパス	クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。 クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。
クロザピン	クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。
ゲノムコホート研究	コホート研究とは、ある特定の集団を一定期間にわたり追跡し、生活習慣等の環境因子や遺伝的要因と疾病発症との関係を解析するための研究である。ゲノムコホート研究は、遺伝子型と疾病発症との関係を解析する研究である。
固定チームナーシング	入院患者への看護は、24時間体制で求められている。しかし、看護師ひとりでは、対応しきれないため、「看護提供方式」を活用して24時間の看護を提供している。 「固定チームナーシング」は、いくつかある看護提供方式の内のひとつの方式のこと。1年間固定したチームメンバーで活動することを原則に、チームで患者の看護を行う方式である。固定チームの受け持ち患者を分担して受け持ち、入院から退院まで24時間チームメンバーにより看護が展開される。看護師メンバーが固定されることで、継続的な看護が提供される。
コーディング	疾病や手術、検査などをコード化する仕事。 最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。 疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）
コメディカル	薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。
ジェネリック医薬品（後発医薬品）	特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。
紹介率・逆紹介率	・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された患者の数が占める割合のことである。 紹介率＝（初診患者のうち紹介患者数）÷初診患者数×100 ・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。 逆紹介率＝逆紹介患者数÷初診患者数×100
初期臨床研修医 後期臨床研修医	免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒業後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）＝研修医（狭義、=前期研修医、1-2年目）＋後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。 一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とはほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。

用語（50音順）	解 説
新専門医制度	新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。 ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。（小児科学会（小児科専門医）はH29より先行実施）
心理教育・家族教室	心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。 患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。
心理・社会的治療	精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種のチーム医療が原則である。 デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、A C Tなどの各種治療法を含む。
診療情報管理士	診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）及び医療研修推進財団が付与する民間資格のこと。 主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。
ステントグラフト内挿術	ステントグラフト内挿術とは、大動脈瘤に対する手術療法で、胸部、腹部を切開することなく足の付け根の血管から人工血管（ステントグラフト）を大動脈瘤内に誘導して蓋をする治療法である。
精神科リエゾンチーム	リエゾンとはフランス語で連携、連絡を意味する言葉である。精神科リエゾンチームとは、身体疾患に伴うさまざまな精神症状を有する患者に対して、身体科及び精神科の医師、看護師、公認心理師、精神保健福祉士等の連携による専門チームが高度な精神科治療を提供するものである。
ダ・ヴィンチ	3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。

用語（50音順）	解 説
地域医療支援病院	1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。 目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。 （承認要件） ・ 病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・ 紹介率及び逆紹介率が基準を満たしていること。 ・ 他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・ 地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・ 救急医療を提供する能力を有すること。
地域医療連携推進法人	地域医療連携推進法人とは、地域において良質かつ適切な医療を効率的に提供するため、病院等に係る業務の連携を推進するための方針（医療連携推進方針）を定め、医療連携推進業務を行う一般社団法人を都道府県知事が認定（医療連携推進認定）する制度である。
地域連携クリニカルパス	病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。
ドクターカー	平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。
認知行動療法	認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。
認定看護師	認定看護師とは、日本看護協会及び日本精神科看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。
ハイブリッド手術室	据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。 ・ 合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・ 手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・ カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・ 鮮明な透視画像により治療精度が向上
リニアック	リニアックとは、日本語では「直線加速器」といわれるもので、荷電粒子を一直線上で加速させて発生した放射線を当てることで、がんなどの治療をする機器です。 多方向からピンポイントで放射線を当てることにより、正常組織への放射線の照射量を低減し、腫瘍部分の放射線量が高くなり細胞を死滅させる治療方法。

用語（50音順）	解 説
レスパイト	レスパイト(レスパイトケア)とは、患者や要介護者等を在宅で日常的にケアしている家族を、他の者がケアを代替することで一時的にケアから解放させ、休息させる家族介護者支援のこと。
レジデント	初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。